

八尾市
高齢者実態調査及び
要介護認定者等実態調査
報告書
《概要版》

令和5（2023）年3月

 八尾市

目次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査設計	1
(1) 高齢者実態調査	1
(2) 要介護認定者実態調査	1
(3) 在宅介護実態調査	1
(4) サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホームの運営事業者に対する実態調査	1
3 回収状況	2
4 報告書の見方	2
第2章 調査結果よりみる課題	3
1 要介護状態になる前のリスク【高齢者実態調査】	3
(1) 運動器機能の低下	3
(2) 低栄養状態	5
(3) 口腔機能の低下	6
(4) 閉じこもり傾向	8
(5) 認知機能の低下	9
(6) うつ傾向	11
(7) 転倒リスク	12
(8) IADLの低下	14
(9) 事業対象者	16
(10) 普段から介護予防のために健康維持・増進を意識しているか	17
2 社会参加状況	18
(1) 地域の会・グループへの参加頻度【高齢者実態調査】	18
(2) 市や高齢者あんしんセンターが実施する講座や教室について参加したことがあるもの	22
(3) 参加者としての地域活動への参加意向【高齢者実態調査】	24
(4) 企画・運営としての地域活動への参加意向【高齢者実態調査】	25
(5) 居場所を感じることができる集まりはあるか【高齢者実態調査】	26
3 地域包括ケアシステムの構築に向けたニーズ	27
(1) 医療・介護が必要となったときに暮らしたい場所【高齢者実態調査】	27
(2) 居住地域は自宅で生活しやすいと感じるか【要介護認定者実態調査】	27
(3) 居住地域は認知症の高齢者に対して理解があると感じるか	28
(4) 居住地域はボランティア活動が活発だと思うか	29
(5) 近所の人やボランティアに手助けしてほしいこと【要介護認定者実態調査】	30
(6) 高齢者あんしんセンターの認知度と利用経験	31

(7) 介護保険サービス以外で在宅生活のために利用したいサービス 【要介護認定者実態調査】 ..	33
(8) 保険外の支援・サービスの利用状況【在宅介護実態調査】	34
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス【在宅介護実態調査】	35
(10) 人生会議を行っているか.....	36
(11) 退院後介護保険サービスへの移行や連携で困ったこと.....	37
(12) 介護に関して支援してほしいこと【要介護認定者実態調査】	38
4 介護サービスのニーズ	39
(1) 介護保険サービスの利用状況.....	39
(2) 介護保険サービスで身近にあれば利用したいサービス.....	41
5 介護者の就労継続や在宅生活の継続に効果的なサービス利用の動向などについて【在宅介護実態調査】	42
(1) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討.....	42
(2) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討.....	46
第3章 日常生活圏域ごとの状況	50

第1章 調査の概要

1 調査の目的

八尾市では、計画期間が令和6(2024)年度から令和8(2026)年度までの第9期八尾市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画を策定する予定としており、この調査は、次期計画策定における基礎的な資料を作成することを目的に実施しました。

2 調査設計

(1) 高齢者実態調査

調査対象：本市に在住され、令和4(2022)年11月10日現在で要介護1～5の認定を受けていない65歳以上の人の中から7,500人を無作為に抽出

調査期間：令和4(2022)年12月16日(金)～令和5(2023)年1月13日(金)

調査方法：郵送配布、郵送回収(回収率向上のための礼状兼督促はがきを郵送)

(2) 要介護認定者実態調査

調査対象：本市に在住され、令和4(2022)年11月10日現在で要介護1～5の認定を受けている人の中から3,000人を無作為に抽出

調査期間：令和4(2022)年12月16日(金)～令和5(2023)年1月13日(金)

調査方法：郵送配布、郵送回収(回収率向上のための礼状兼督促はがきを郵送)

(3) 在宅介護実態調査

調査対象：本市に在住され、令和4(2022)年11月10日現在で要支援・要介護の認定を受けている在宅の人の中から600人を無作為に抽出

調査期間：令和5(2023)年1月13日(金)～令和5(2023)年2月3日(金)

調査方法：郵送配布、郵送回収

(4) サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホームの運営事業者に対する実態調査

調査対象：令和4(2022)年12月1日現在で入居者が入所し、かつ令和4(2022)年12月1日現在で八尾市の登録を受けているサービス付き高齢者向け住宅及び有料老人ホームに係る登録事業者90事業者

調査期間：令和4(2022)年12月23日(金)～令和5(2023)年1月20日(金)

調査方法：郵送配布、郵送回収(回収率向上のための礼状兼督促はがきを郵送)

3 回収状況

■調査の配布数と回収状況

	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
(1) 高齢者実態調査	7,500 件	5,326 件	71.0%	5,322 件	71.0%
(2) 要介護認定者実態調査	3,000 件	1,638 件	54.6%	1,636 件	54.5%
(3) 在宅介護実態調査	600 件	349 件	58.2%	349 件	58.2%
(4) サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホームの運営事業者に対する実態調査	90 件	53 件	58.9%	53 件	58.9%

4 報告書の見方

- 調査結果の図表は、原則として回答者の構成比(百分率)で表現しています。
- 図表中の「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
- 集計は、回答者数（該当質問においては該当者数）を 100%として算出し、本文及び図表の数値に関しては、全て小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までを表記します。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。また、複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。

第2章 調査結果よりみる課題

ここでは、調査結果を日常生活圏域ごとの地域の課題等を特定できるように「要介護状態になる前のリスク」、「社会参加状況」、「地域包括ケアシステムの構築に向けたニーズ」、「介護サービスのニーズ」、「介護者の就労継続や在宅生活の継続に効果的なサービス利用の動向などについて」の5点について分析を行いました。

1 要介護状態になる前のリスク【高齢者実態調査】

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」は、要介護状態になる前の高齢者について、要介護状態になるリスクの発生状況と、各種リスクに影響を与える日常生活の状況を把握し、地域の抱える課題を特定することを目的に実施しています。

ここでは、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の調査項目を使用し、各種リスクの判定を行っています。

(1) 運動器機能の低下

下記の5設問について、3問以上該当する選択肢が回答された場合、運動器機能の低下している高齢者として判定しました。

■運動器機能の低下を判定するための項目

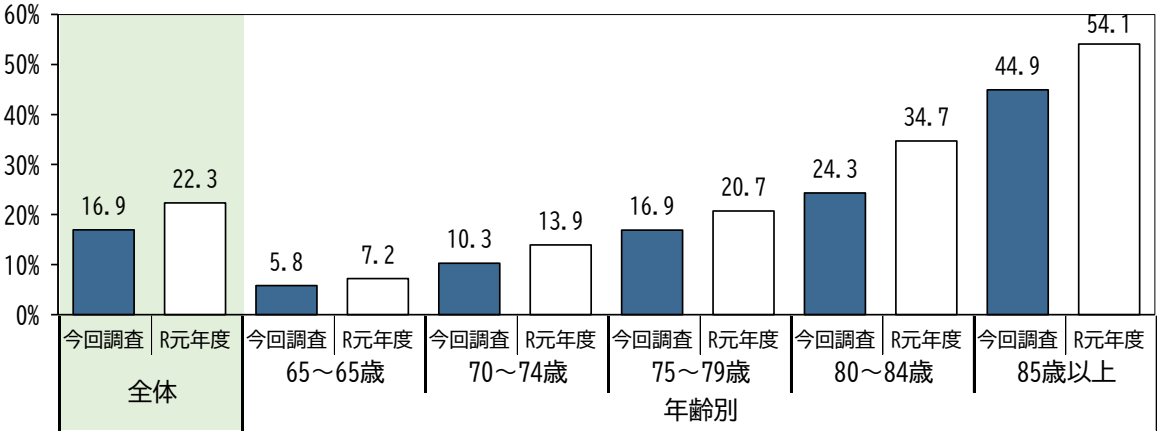
設問番号	設問	該当する選択肢
問2-1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	「3. できない」
問2-2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	「3. できない」
問2-3	15分位続けて歩いていますか。	「3. できない」
問2-4	過去1年間に転んだ経験がありますか。	「1. 何度もある」 「2. 1度ある」
問2-6	転倒に対する不安は大きいですか。	「1. とても不安である」 「2. やや不安である」

運動器機能が低下している高齢者が減少している。

運動器機能が低下していると判定された高齢者の割合は、全体で16.9%で、令和元（2019）年度調査（22.3%）より5.4ポイント減少しています。

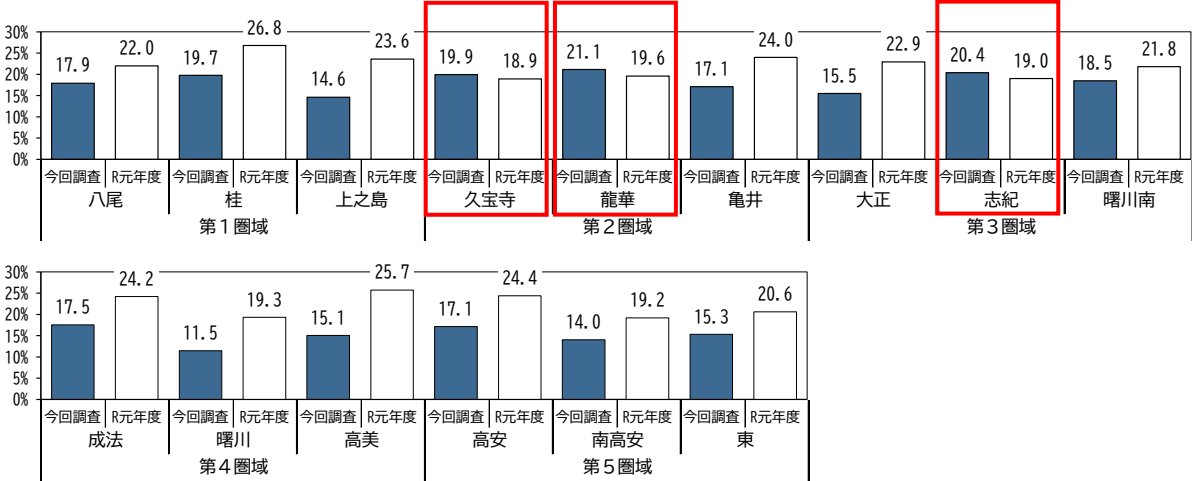
年齢別でみると、全ての年齢層で令和元（2019）年度調査より割合が減少しています。

■運動器機能の低下 該当者の割合【高齢者実態調査】



中学校区別でみると、龍華中学校区が21.1%で最も高く、久宝寺中学校区、龍華中学校区、志紀中学校区で令和元（2019）年度調査より割合が増加しています。

■運動器機能の低下 中学校区別【高齢者実態調査】



(2) 低栄養状態

下記の2設問について、2設問ともに該当した場合、低栄養状態の高齢者として判定しました。

■低栄養状態を判定するための項目

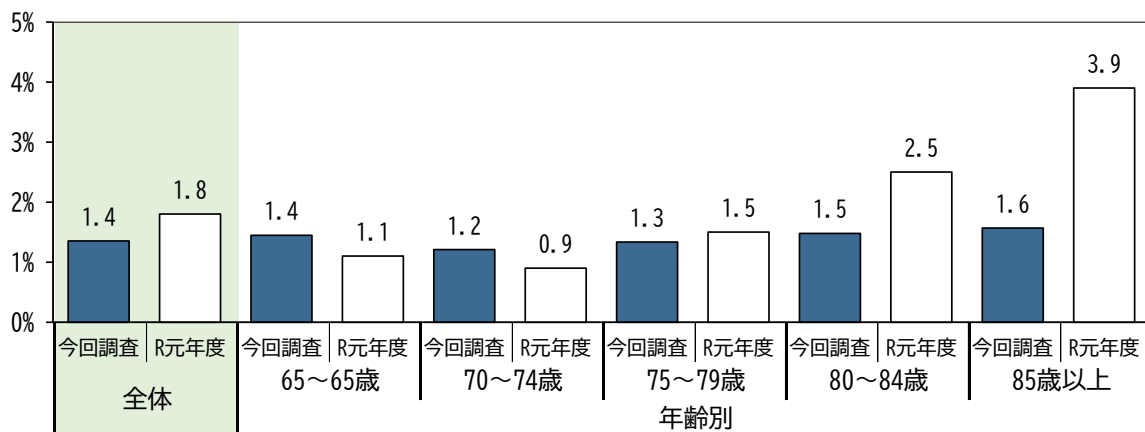
設問番号	設問	該当する選択肢
問3-1	身長・体重を教えてください。	身長・体重から算出されるBMI (体重 (kg) ÷ {身長 (m) × 身長 (m)}) が18.5以下
問3-10	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	「1. はい」

低栄養状態の高齢者の割合は1.4%で、令和元(2019)年度調査と大きな差はみられない。

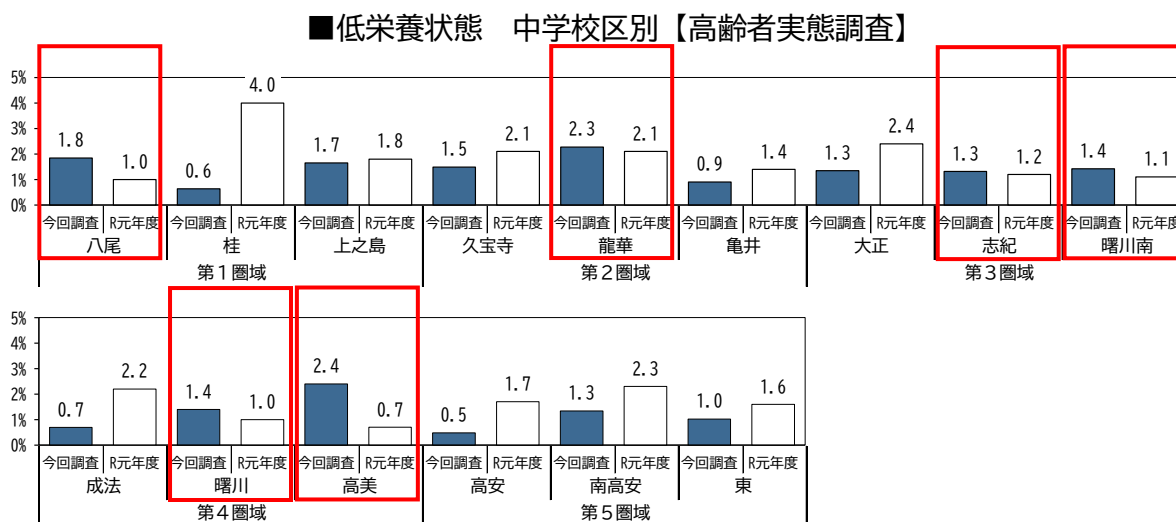
低栄養状態と判定された高齢者の割合は、全体で1.4%で、令和元(2019)年度調査(1.8%)と大きな差はみられません。

年齢別でみると、令和元(2019)年度調査同様、85歳以上の割合が最も高くなっています。

■低栄養状態 該当者の割合【高齢者実態調査】



中学校区別でみると、高美中学校区が2.4%で最も高く、八尾中学校区、龍華中学校区、志紀中学校区、曙川南中学校区、曙川中学校区、高美中学校区で令和元（2019）年度調査より割合が増加しています。



(3) 口腔機能の低下

下記の3設問について、2問以上該当する選択肢が回答された場合、口腔機能が低下している高齢者として判定しました。

■口腔機能の低下を判定するための項目

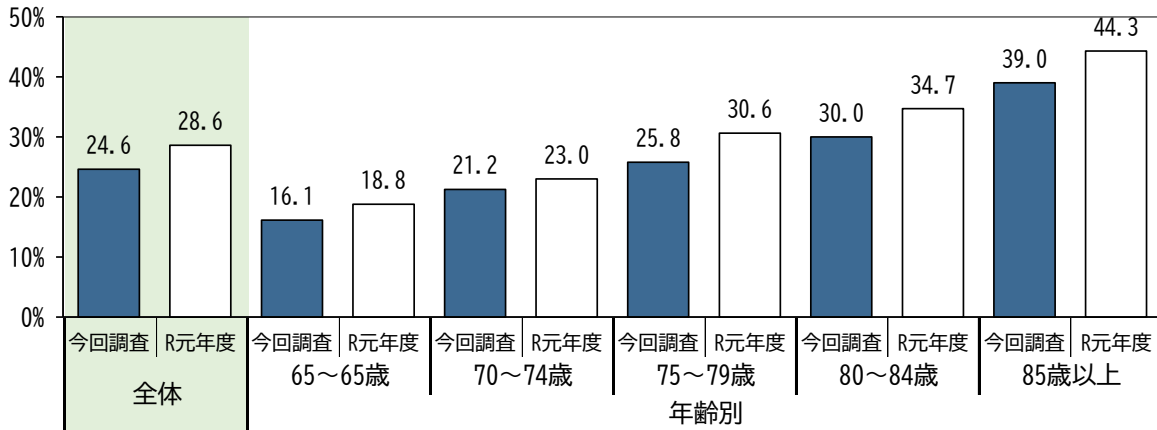
設問番号	設問	該当する選択肢
問3-3	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	「1. はい」
問3-4	お茶や汁物等でむせることがありますか。	「1. はい」
問3-5	口の渇きが気になりますか。	「1. はい」

口腔機能が低下している高齢者が減少している。

口腔機能が低下していると判定された高齢者の割合は、全体で 24.6%で、令和元（2019）年度調査（28.6%）より 4.0 ポイント減少しています。

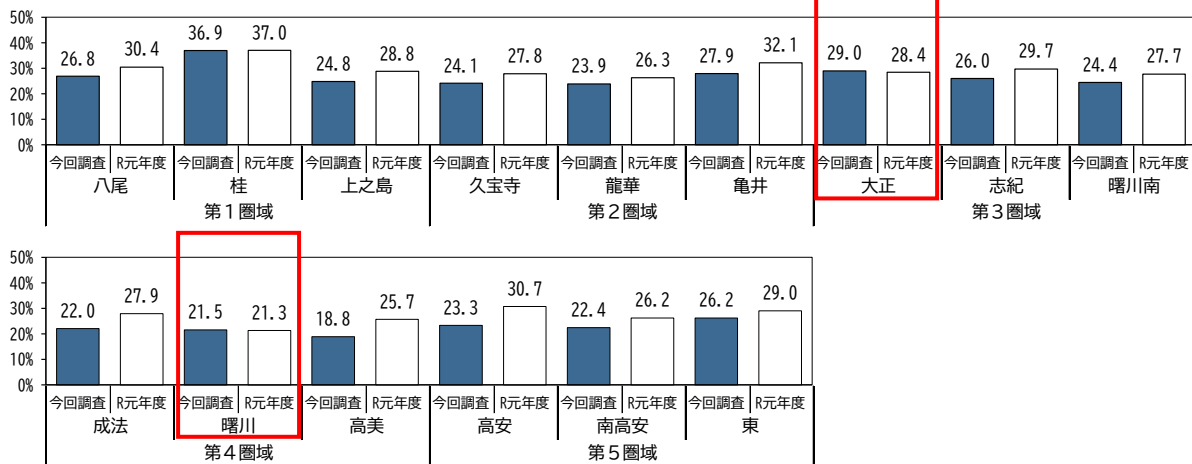
年齢別でみると、全ての年齢層で令和元（2019）年度調査より割合が減少しています。

■口腔機能の低下 該当者の割合【高齢者実態調査】



中学校区別でみると、桂中学校区が 36.9%で最も高く、大正中学校区、曙川中学校区で令和元（2019）年度調査より割合が増加しています。

■口腔機能の低下 中学校区別【高齢者実態調査】



(4) 閉じこもり傾向

下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、閉じこもり傾向の高齢者として判定しました。

■閉じこもり傾向を判定するための項目

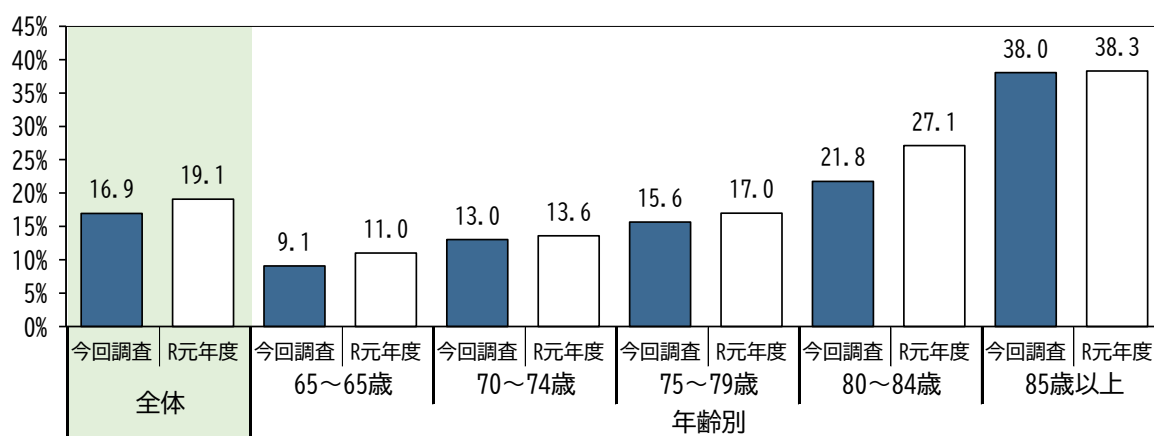
設問番号	設問	該当する選択肢
問2-7	週に1回以上は外出していますか。	「1. ほとんど外出しない」 「2. 週1回」

閉じこもり傾向の高齢者の割合は16.9%で、令和元（2019）年度調査と大きな差はみられない。

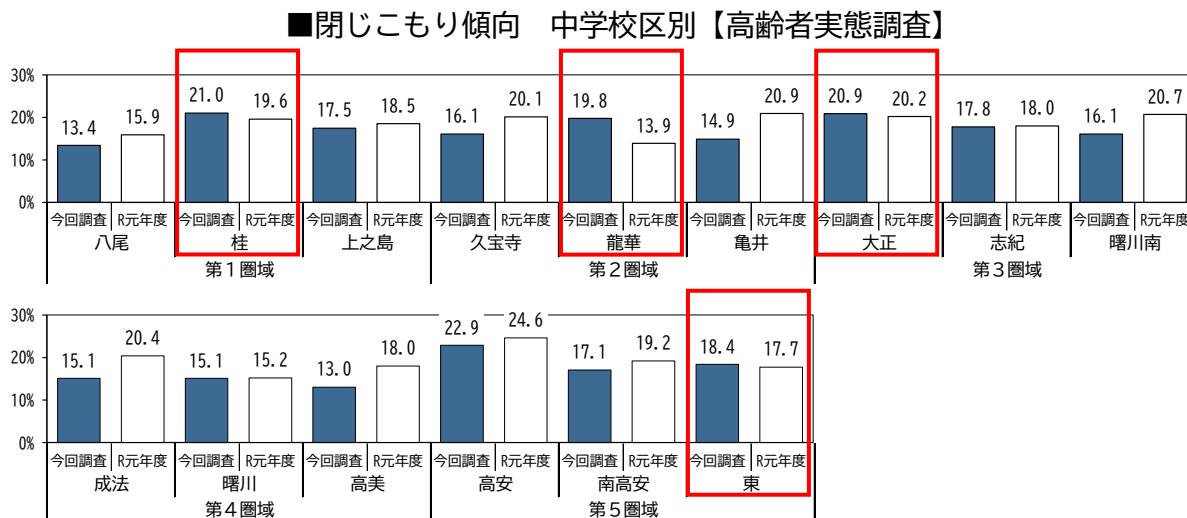
閉じこもり傾向と判定された高齢者の割合は、全体で16.9%で、令和元（2019）年度調査と大きな差はみられません。

年齢別でみると、80～84歳（21.8%）が令和元（2019）年度調査（27.1%）より5.3ポイント減少しています。

■閉じこもり傾向 該当者の割合【高齢者実態調査】



中学校区別でみると、高安小中学校区が22.9%で最も高く、桂中学校区、龍華中学校区、大正中学校区、東中学校区で令和元（2019）年度調査より割合が増加しています。



(5) 認知機能の低下

下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、認知機能の低下がみられる高齢者として判定しました。

■認知機能の低下を判定するための項目

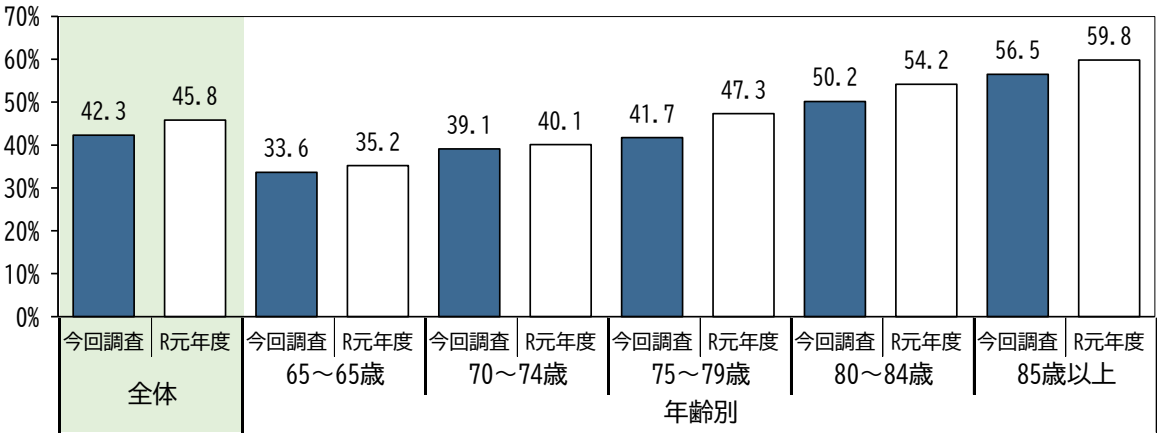
設問番号	設問	該当する選択肢
問4-1	物忘れが多いと感じますか。	「1. はい」

認知機能が低下している高齢者が減少している。

認知機能の低下がみられると判定された高齢者の割合は、全体で42.3%で、令和元（2019）年度調査（45.8%）より3.5ポイント減少しています。

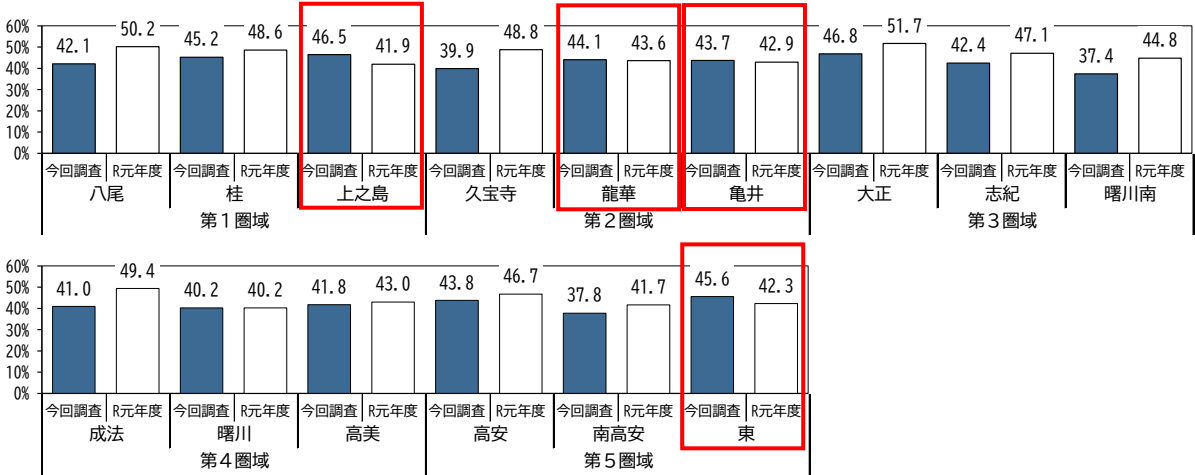
年齢別でみると、全ての年齢層で令和元（2019）年度調査より割合が減少しています。

■認知機能の低下 該当者の割合【高齢者実態調査】



中学校区別でみると、大正中学校区が46.8%で最も高く、上之島中学校区、龍華中学校区、亀井中学校区、東中学校区で令和元（2019）年度調査より割合が増加しています。

■認知機能の低下 中学校区別【高齢者実態調査】



(6) うつ傾向

下記の2設問について、いずれか1つでも該当する選択肢が回答された場合、うつ傾向の高齢者として判定しました。

■うつ傾向を判定するための項目

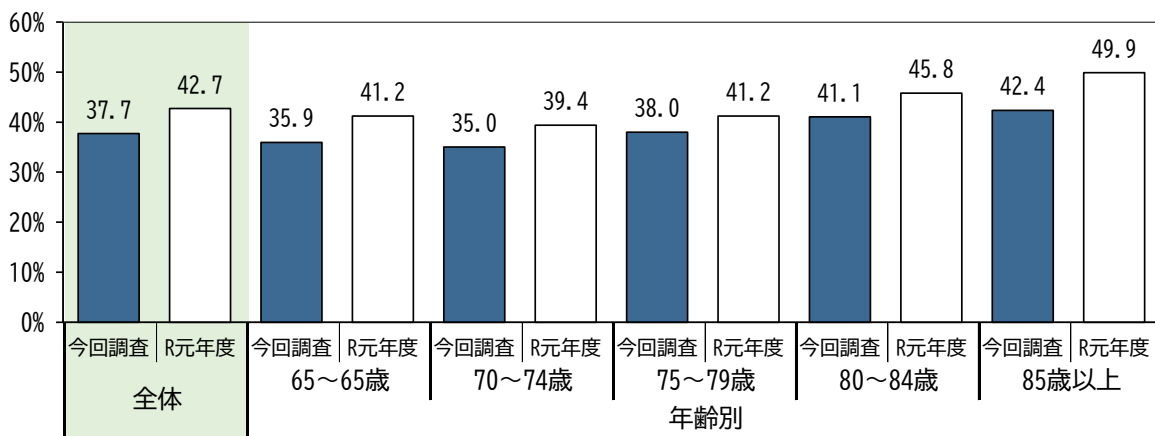
設問番号	設問	該当する選択肢
問8-8	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	「1. はい」
問8-9	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	「1. はい」

うつ傾向の高齢者が減少している。

うつ傾向と判定された高齢者の割合は、全体で37.7%で、令和元（2019）年度調査（42.7%）より5.0ポイント減少しています。

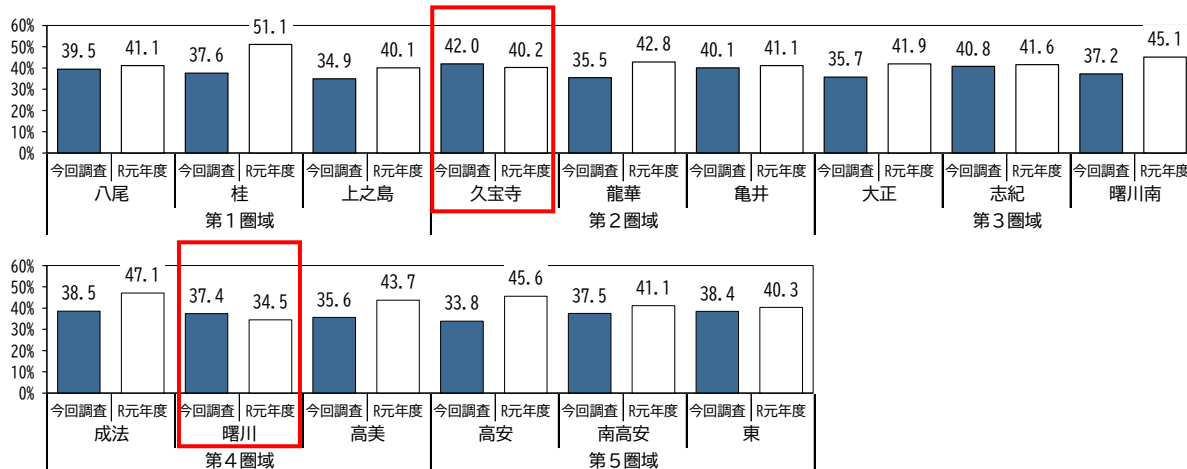
年齢別でみると、全ての年齢層で令和元（2019）年度調査より割合が減少しています。

■うつ傾向 該当者の割合【高齢者実態調査】



中学校区別でみると、久宝寺中学校区が42.0%で最も高く、久宝寺中学校区、曙川中学校区で令和元（2019）年度調査より割合が増加しています。

■うつ傾向 中学校区別【高齢者実態調査】



(7) 転倒リスク

下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、転倒リスクのある高齢者として判定しました。

■転倒リスクを判定するための項目

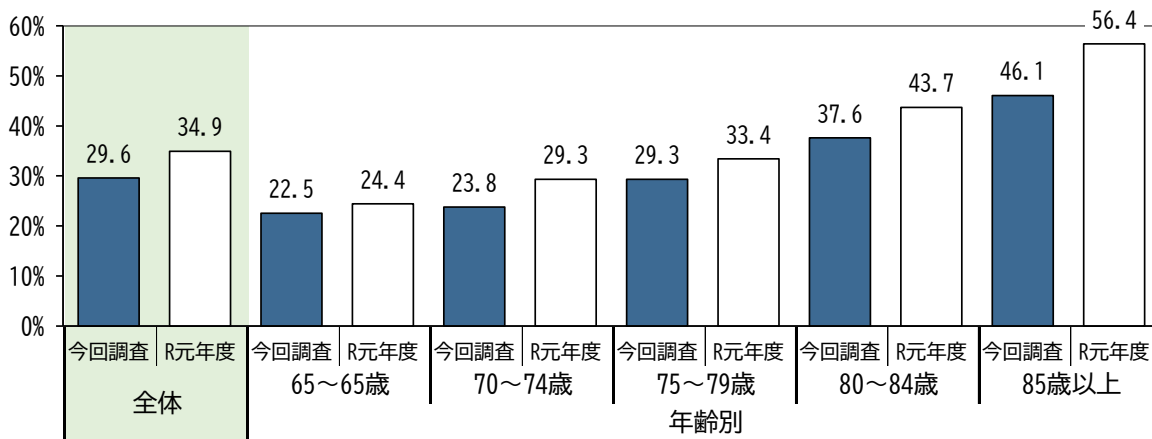
設問番号	設問	該当する選択肢
問2-4	過去1年間に転んだ経験がありますか。	「1. 何度もある」 「2. 1度ある」

転倒リスクがある高齢者が減少している。

転倒リスクがあると判定された高齢者の割合は、全体で 29.6%で、令和元(2019)年度調査(34.9%)より 5.3 ポイント減少しています。

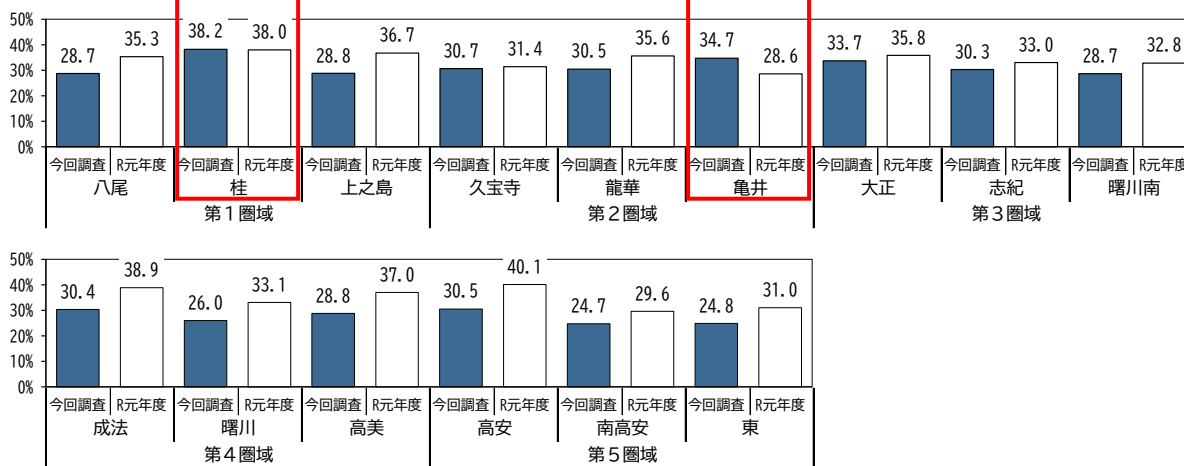
年齢別でみると、全ての年齢層で令和元 (2019) 年度調査より割合が減少しています。

■転倒リスク 該当者の割合【高齢者実態調査】



中学校区別でみると、桂中学校区が 38.2%で最も高く、桂中学校区、亀井中学校区で令和元(2019)年度調査より割合が増加しています。

■転倒リスク 中学校区別【高齢者実態調査】



(8) IADLの低下

老研式活動能力指標に基づき、下記の5設問について、該当する選択肢を回答した場合を1点として、5点満点で評価し、4点以下の場合、IADL（手段的日常生活自立度）が低下している高齢者として判定しました。

※ IADL（手段的日常生活自立度）とは、買物、電話、外出等、ADL（日常生活動作：起居動作・移乗・移動・食事・更衣・排泄・入浴・整容）よりも高い自立した日常生活を送る能力をいいます。

■ IADLの低下を判定するための項目

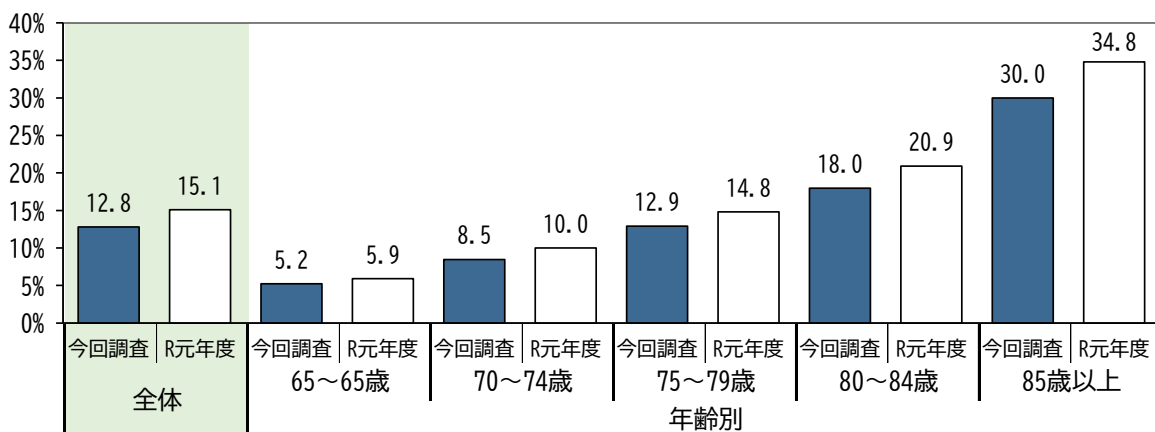
設問番号	設問	該当する選択肢
問4-3	バスや電車を使って一人で外出していますか（自家用車でも可）。	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4-4	自分で食品・日用品の買物をしていますか。	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4-5	自分で食事の用意をしていますか。	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4-6	自分で請求書の支払いをしていますか。	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4-7	自分で預貯金の出し入れをしていますか。	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」

IADL（手段的日常生活自立度）が低下している高齢者の割合は12.8%で、令和元（2019）年度調査と大きな差はみられない。

IADLが低下していると判定された高齢者の割合は、全体で12.8%で、令和元（2019）年度調査より大きな差はみられません。

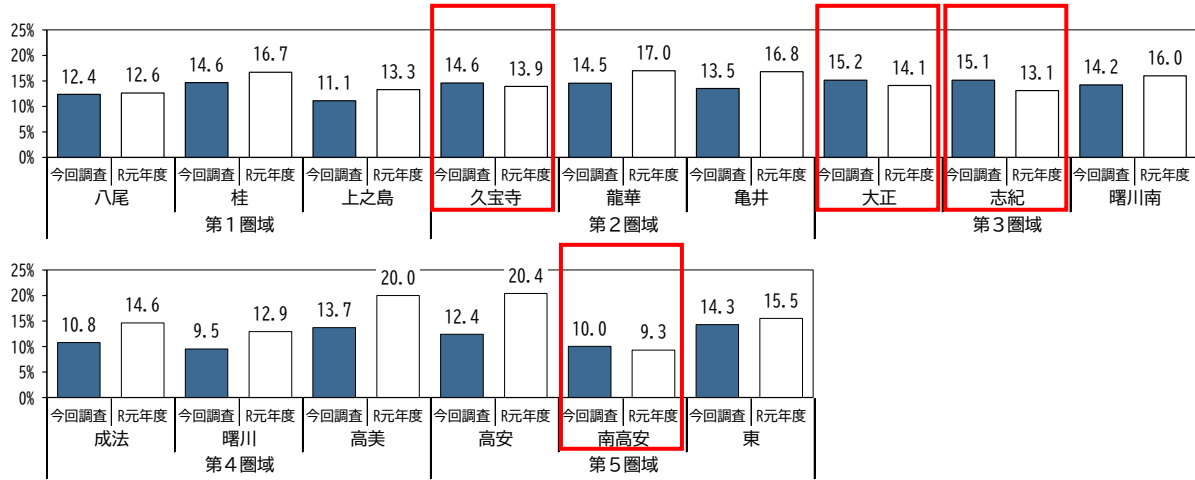
年齢別でみると、85歳以上（30.0%）が令和元（2019）年度調査（34.8%）より4.8ポイント減少しています。

■ IADLの低下 該当者の割合【高齢者実態調査】



中学校区別でみると、大正中学校区が15.2%で最も高く、久宝寺中学校区、大正中学校区、志紀中学校区、南高安中学校区で令和元（2019）年度調査より割合が増加しています。

■ IADLの低下 中学校区別【高齢者実態調査】



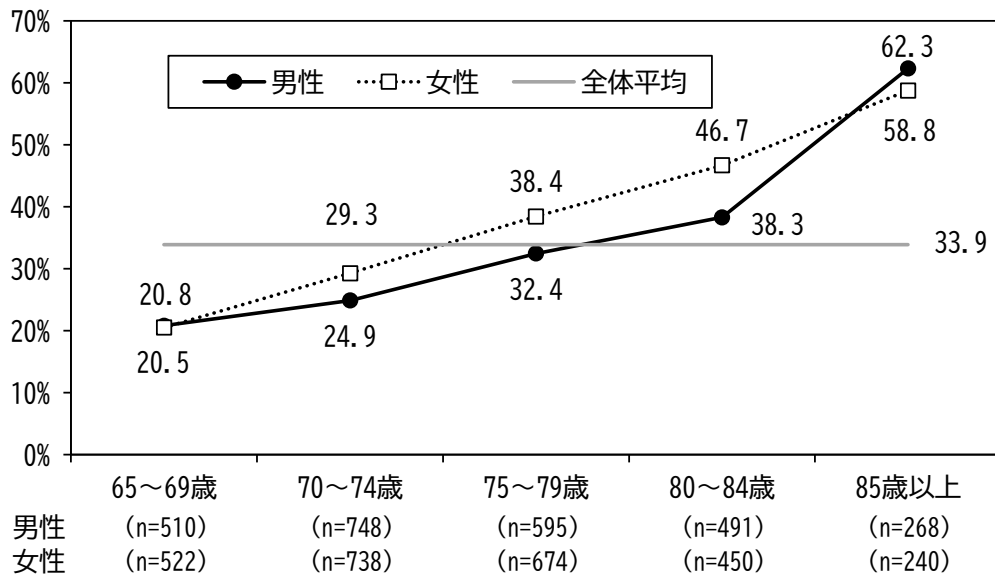
(9) 事業対象者

事業対象者と判定された高齢者の割合は、全体で 33.9%。

運動器機能の低下、低栄養状態、口腔機能の低下のいずれかに該当している場合、事業対象者として判定しました。

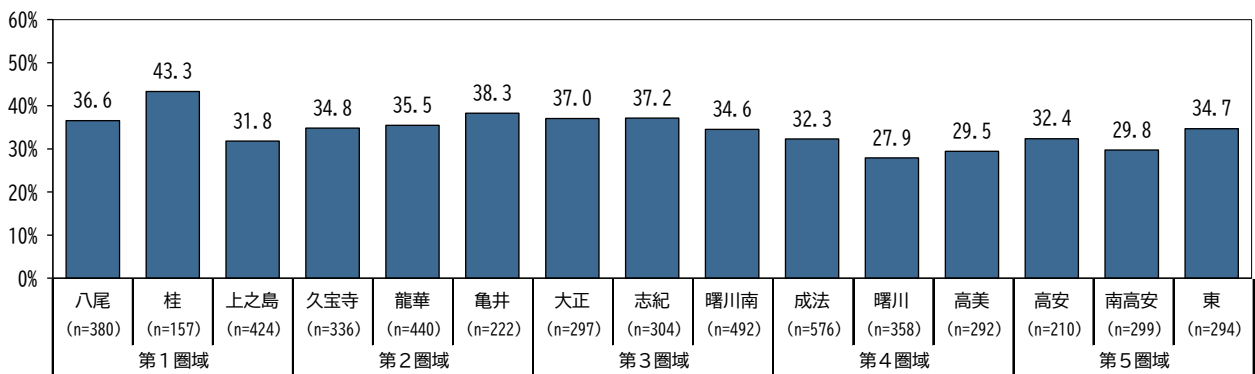
事業対象者と判定された高齢者の割合は、全体で 33.9%となっています。

■事業対象者 該当者の割合【高齢者実態調査】



中学校区別で見ると、桂中学校区が 43.3% で最も高くなっています。

■事業対象者 中学校区別【高齢者実態調査】



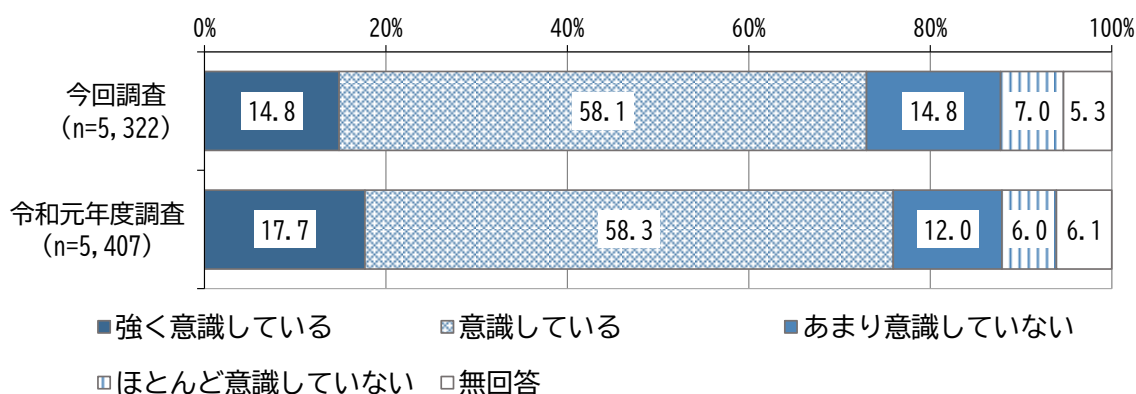
(10) 普段から介護予防のために健康維持・増進を意識しているか

普段から介護予防のために健康維持・増進を意識していない人が増加している。

普段から介護予防のために健康維持・増進を意識しているかについては、「意識している」が58.1%で最も高く、次いで「強く意識している」が14.8%、「あまり意識していない」が14.8%と続いています。

令和元（2019）年度調査と比較すると、『意識していない』（「あまり意識していない」と「ほとんど意識していない」の合計）（21.8%）では、令和元（2019）年度調査（18.0%）より3.8ポイント増加しています。

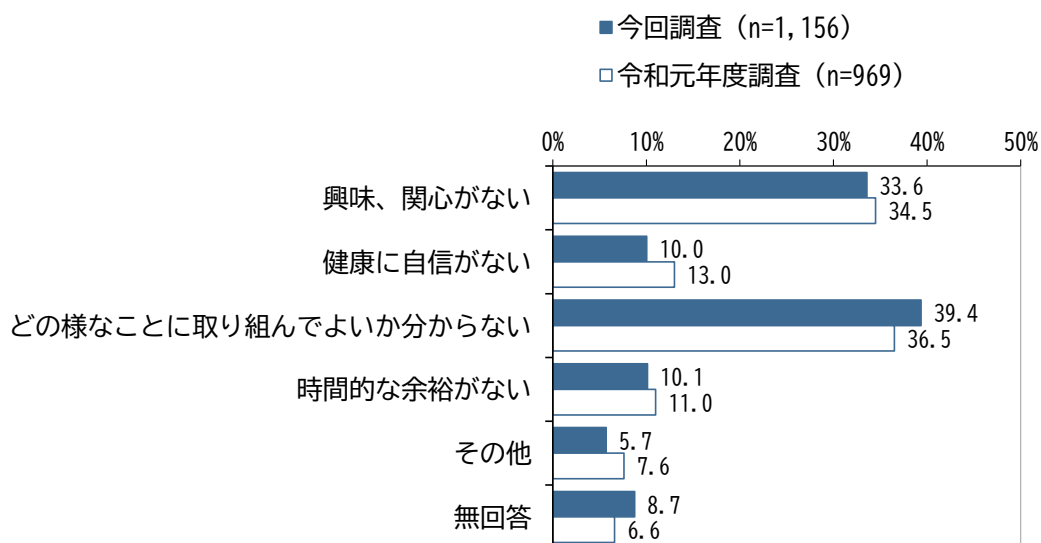
■ 普段から介護予防のために健康維持・増進を意識しているか【高齢者実態調査】



『意識していない』と回答した方の健康維持・増進を意識していない理由については、「どのようなことに取り組んでよいか分からない」が39.4%で最も高く、次いで「興味、関心がない」が33.6%、「時間的な余裕がない」が10.1%と続いています。

令和元（2019）年度調査と比較すると、「健康に自信がない」（10.0%）では、令和元（2019）年度調査（13.0%）より3.0ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

■ 健康維持・増進を意識していない理由【高齢者実態調査】



2 社会参加状況

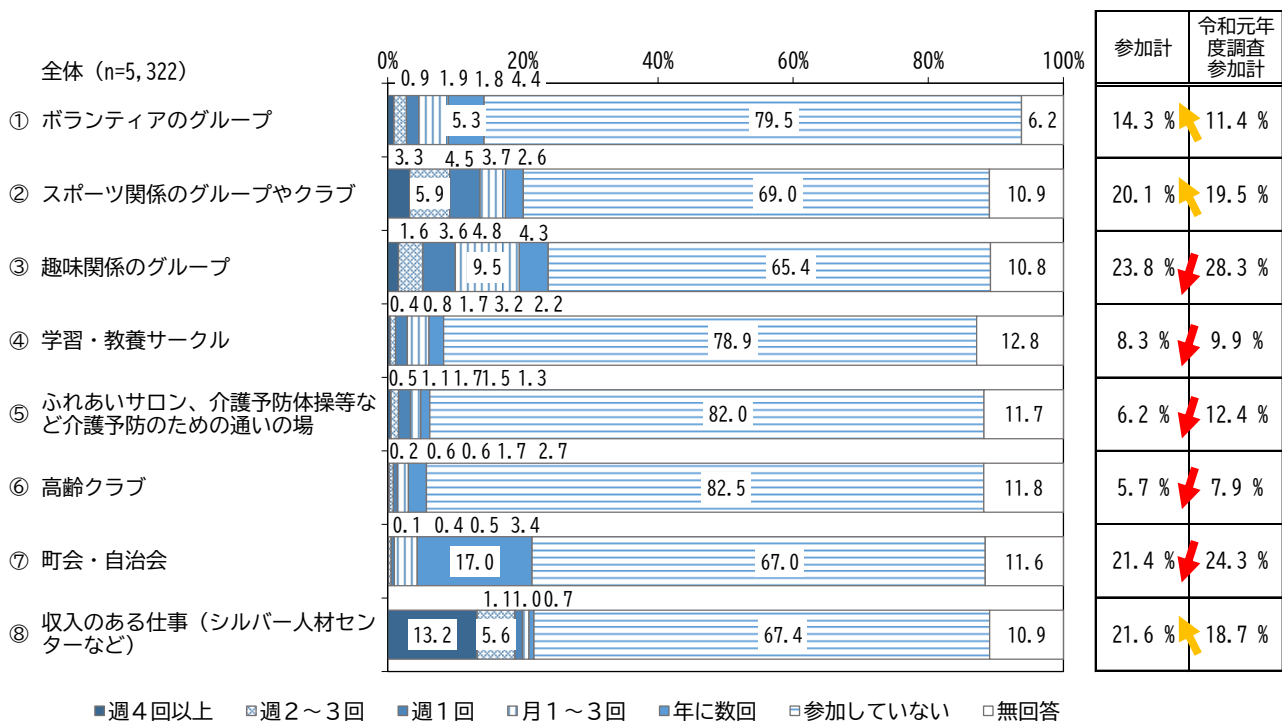
(1) 地域の会・グループへの参加頻度【高齢者実態調査】

「ボランティアのグループ」、「スポーツ関係のグループやクラブ」、「収入のある仕事（シルバー人材センターなど）」への参加割合が増加している一方、「趣味関係のグループ」、「学習・教養サークル」、「介護予防のための通いの場」、「高齢クラブ」、「町会・自治会」への参加割合が減少している。

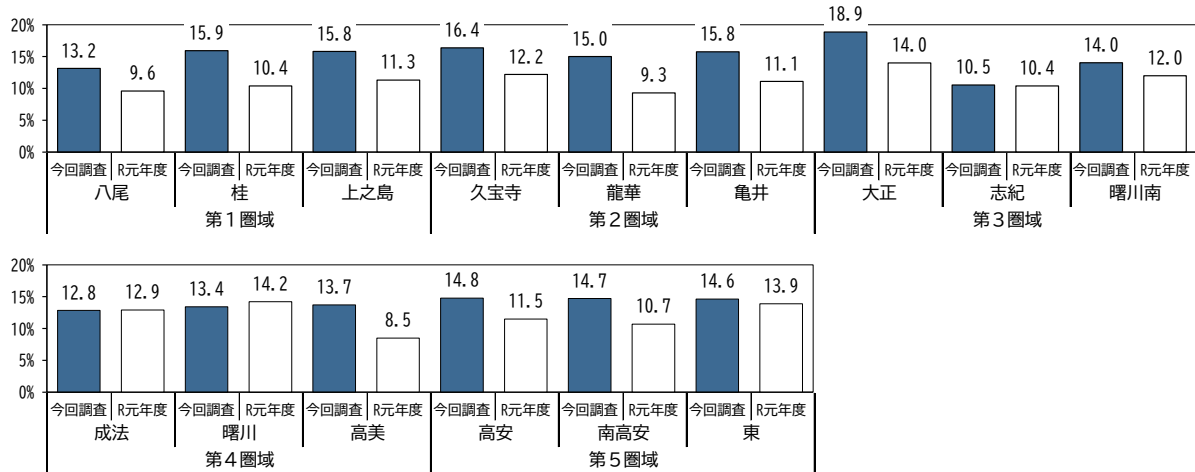
地域の会・グループへの参加頻度について、『参加計』（「週4回以上」から「年に数回」までの合計）でみると、「③ 趣味関係のグループ」が23.8%で最も高く、次いで「⑧ 収入のある仕事（シルバー人材センターなど）」が21.6%、「⑦ 町会・自治会」が21.4%と続いています。

令和元（2019）年度調査と比較すると、『参加計』では、「① ボランティアのグループ」、「② スポーツ関係のグループやクラブ」、「⑧ 収入のある仕事（シルバー人材センターなど）」で令和元（2019）年度調査より割合が増加しています。

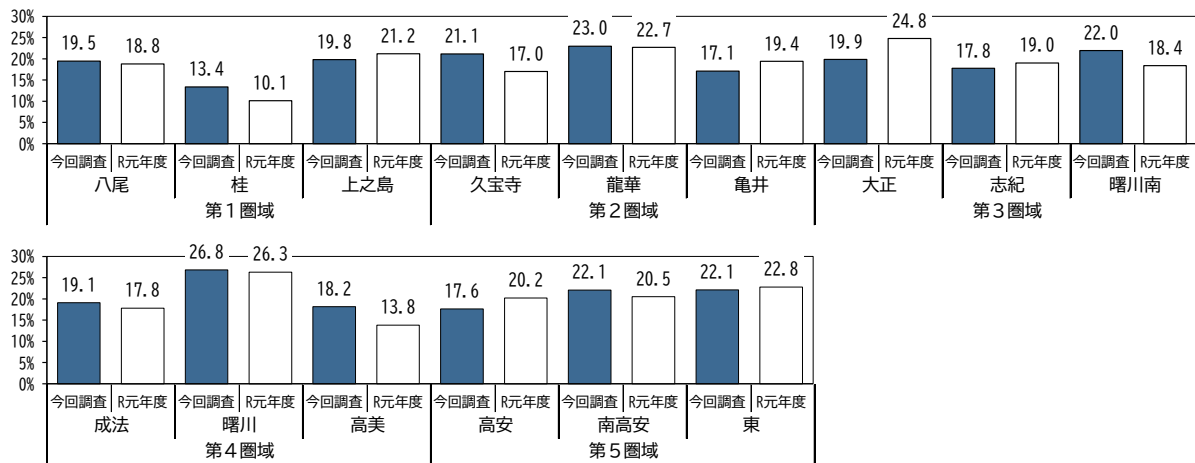
■地域の会・グループへの参加頻度【高齢者実態調査】



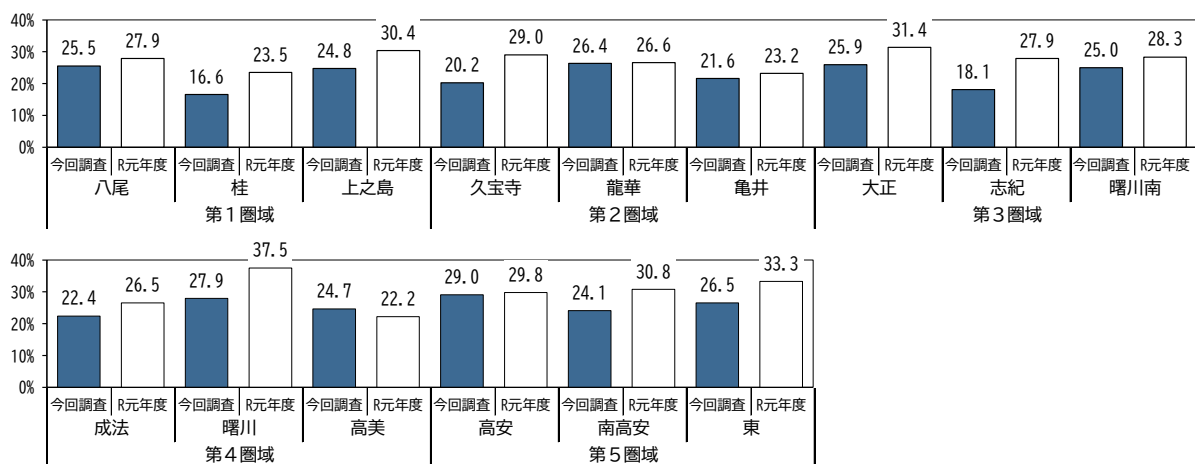
■① ボランティアのグループへの参加割合 中学校区別【高齢者実態調査】



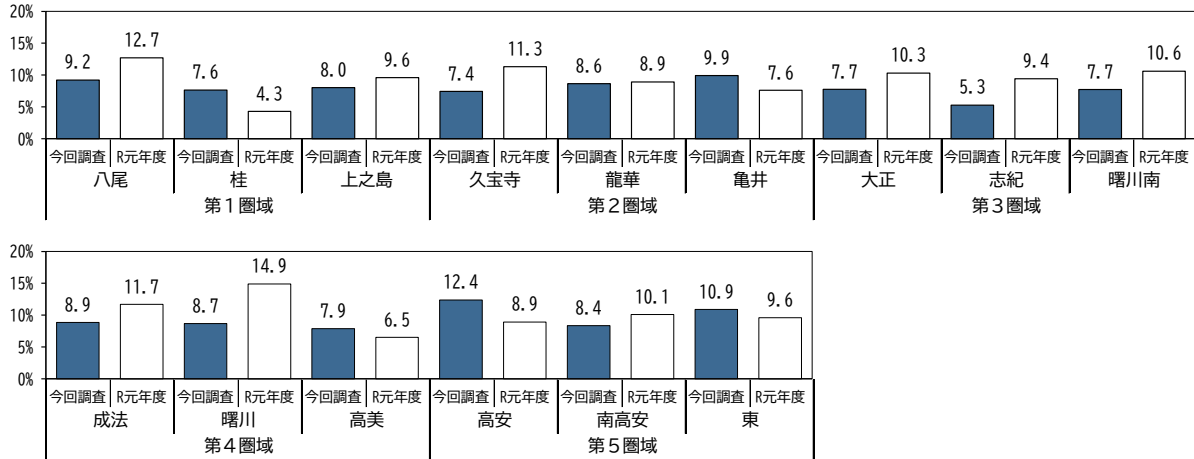
■② スポーツ関係のグループやクラブへの参加割合 中学校区別【高齢者実態調査】



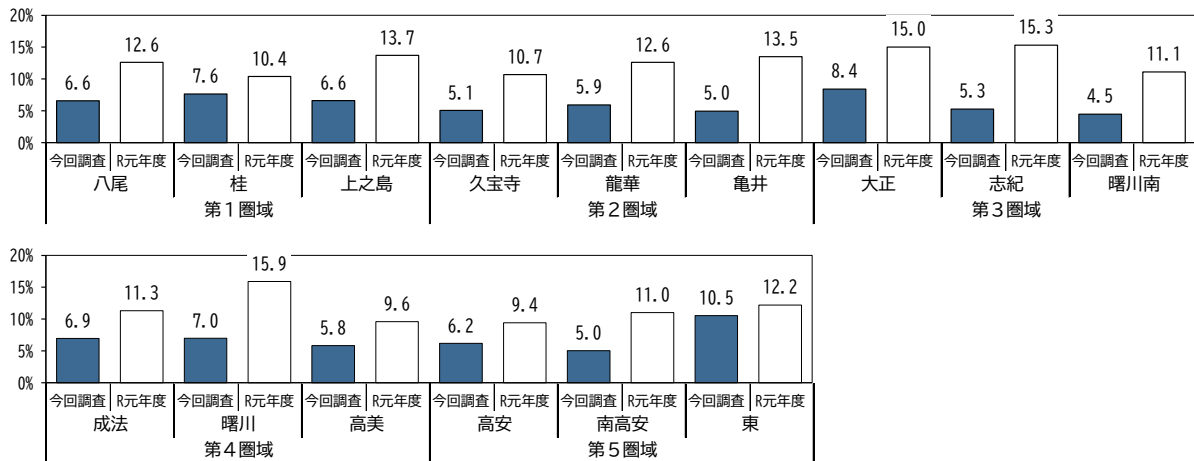
■③ 趣味関係のグループへの参加割合 中学校区別【高齢者実態調査】



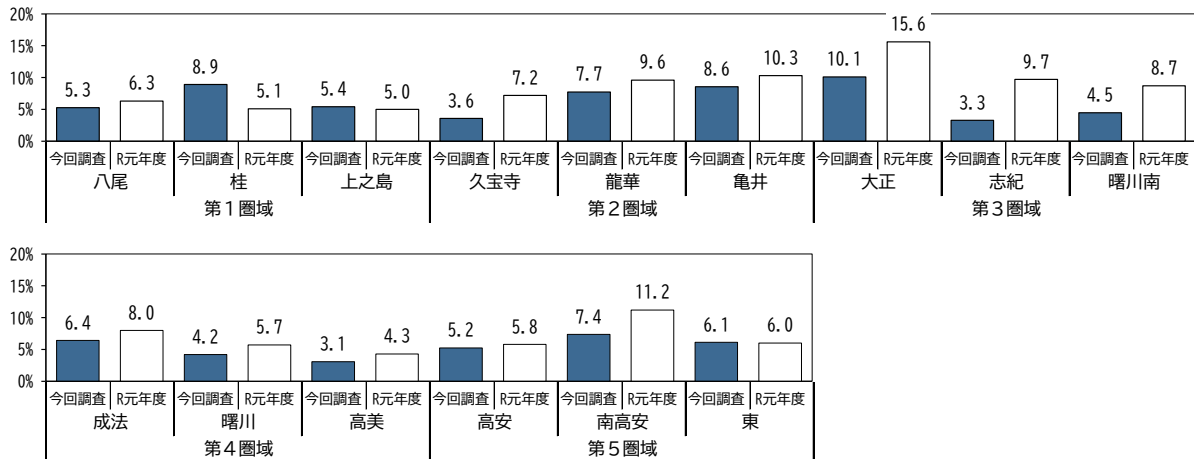
■④ 学習・教養サークルへの参加割合 中学校区別【高齢者実態調査】



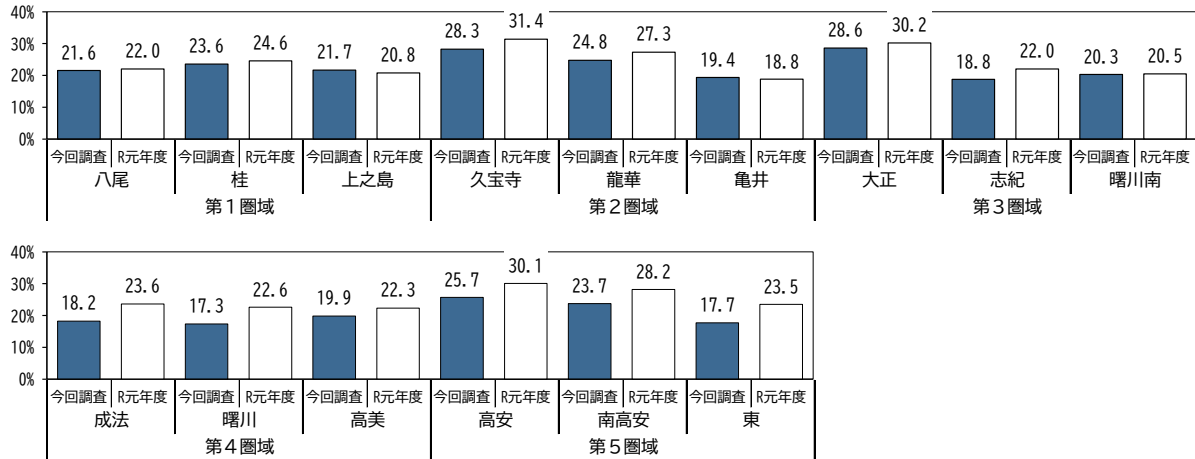
■⑤ ふれあいサロン、介護予防体操など介護予防のための通いの場への参加割合
中学校区別【高齢者実態調査】



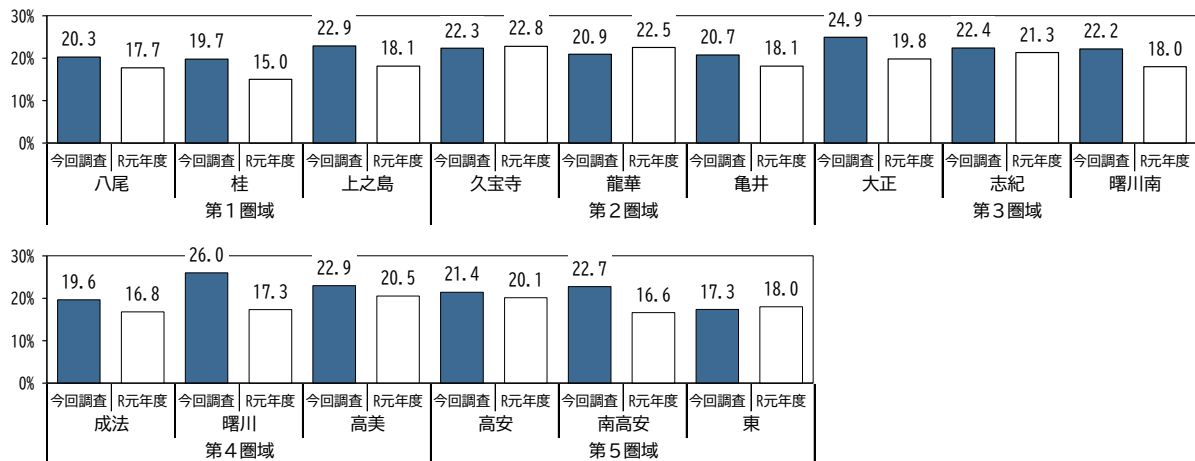
■⑥ 高齢クラブへの参加割合 中学校区別【高齢者実態調査】



■⑦ 町会・自治会への参加割合 中学校区別【高齢者実態調査】



■⑧ 収入のある仕事（シルバー人材センターなど）への参加割合 中学校区別【高齢者実態調査】



(2) 市や高齢者あんしんセンターが実施する講座や教室について参加したことがあるもの

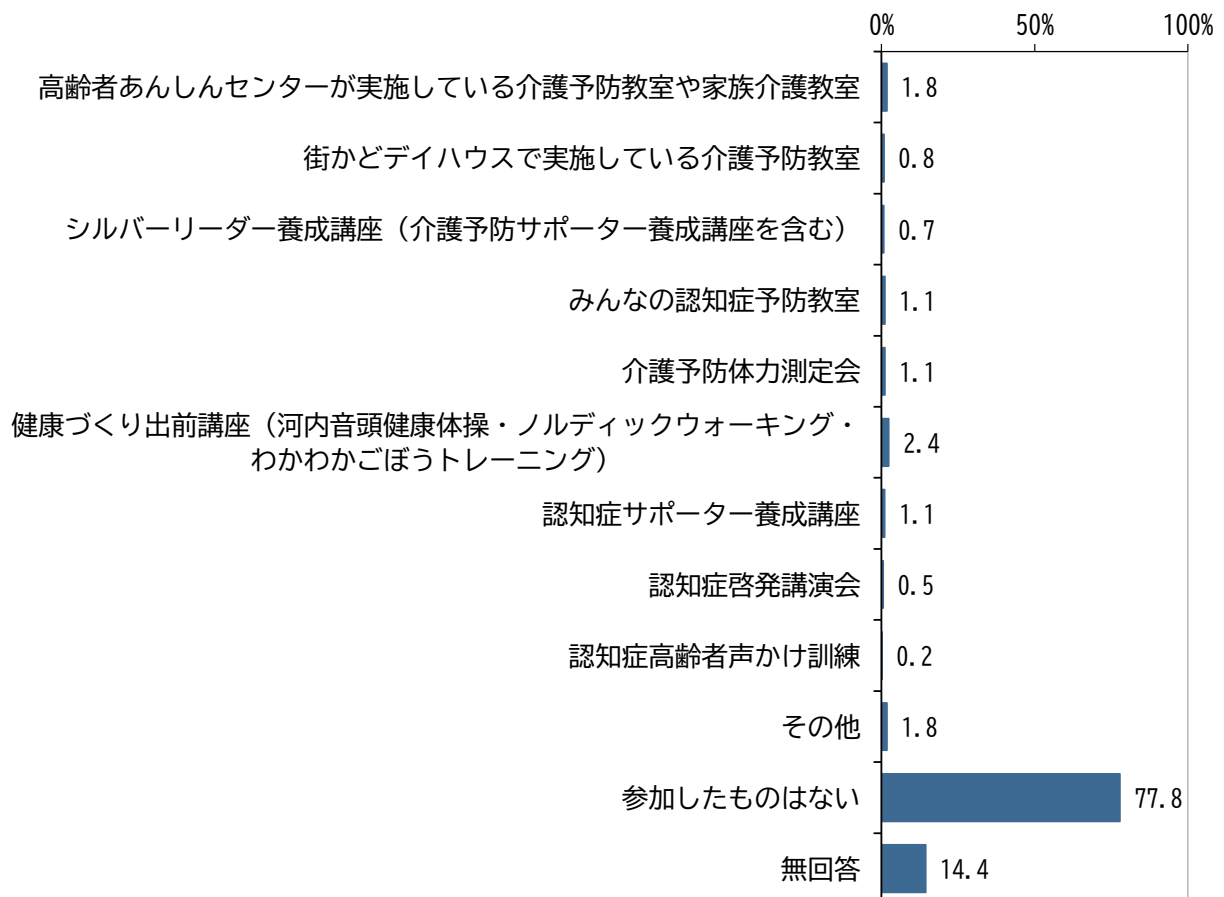
市や高齢者あんしんセンターが実施する講座に参加したことがない人が高齢者実態調査、要介護認定者実態調査いずれも約8割。

① 高齢者実態調査

市や高齢者あんしんセンターが実施する講座や教室について参加したことがあるものについては、「参加したものはなし」が77.8%で最も高く、次いで「健康づくり出前講座（河内音頭健康体操・ノルディックウォーキング・わかわかごぼうトレーニング）」が2.4%、「その他」が1.8%と続いています。

■市や高齢者あんしんセンターが実施する講座や教室について参加したことがあるもの 【高齢者実態調査】

全体（n=5,322）



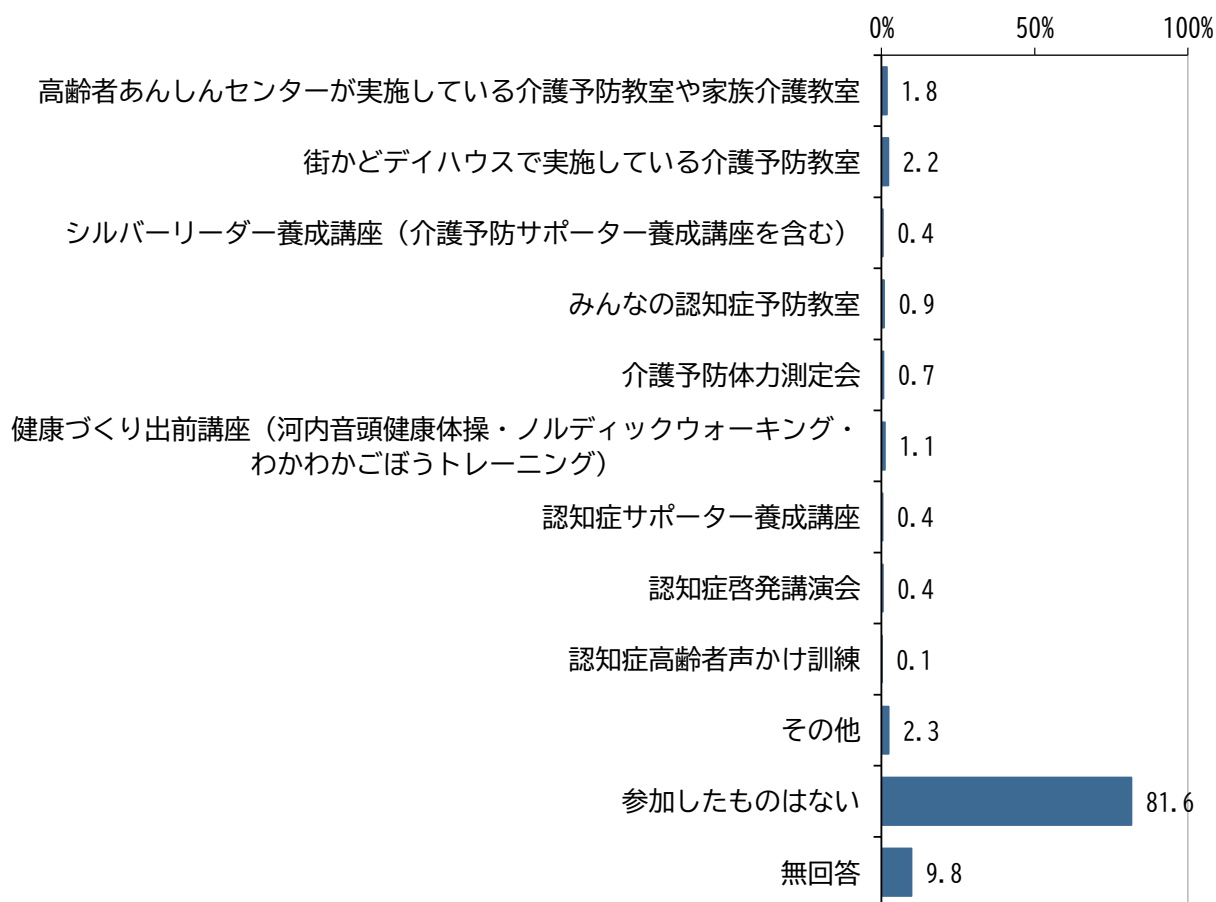
② 要介護認定者実態調査

市や高齢者あんしんセンターが実施する講座や教室について参加したことがあるものについては、「参加したものはない」が81.6%で最も高く、次いで「その他」が2.3%、「まちかどデイハウスで実施している介護予防教室」が2.2%と続いています。

■市や高齢者あんしんセンターが実施する講座や教室について参加したことがあるもの

【要介護認定者実態調査】

全体 (n=1,636)



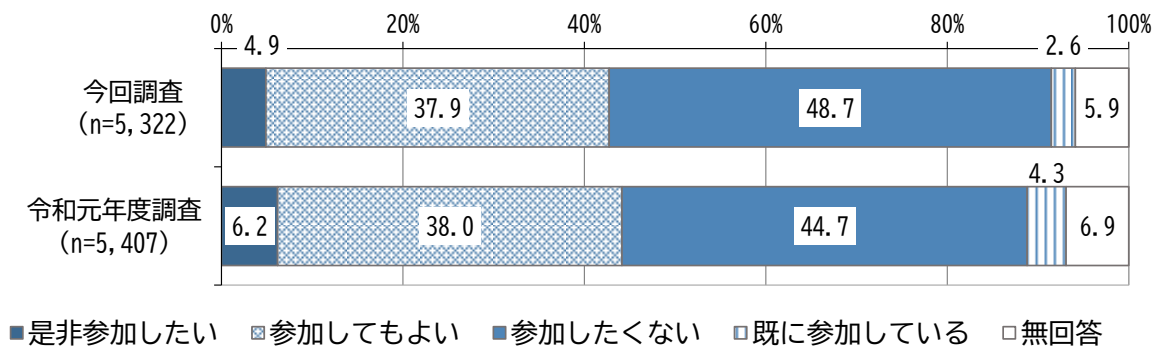
(3) 参加者としての地域活動への参加意向【高齢者実態調査】

参加者として、地域活動への参加意向がある人が減少している。

参加者としての地域活動への参加意向については、「参加したくない」が48.7%で最も高く、次いで「参加してもよい」が37.9%、「是非参加したい」が4.9%と続いています。

令和元(2019)年度調査と比較すると、『参加意向がある』(「是非参加したい」と「参加してもよい」)、「既に参加している」の合計(45.4%)では、令和元(2019)年度調査(48.5%)より3.1ポイント減少しています。

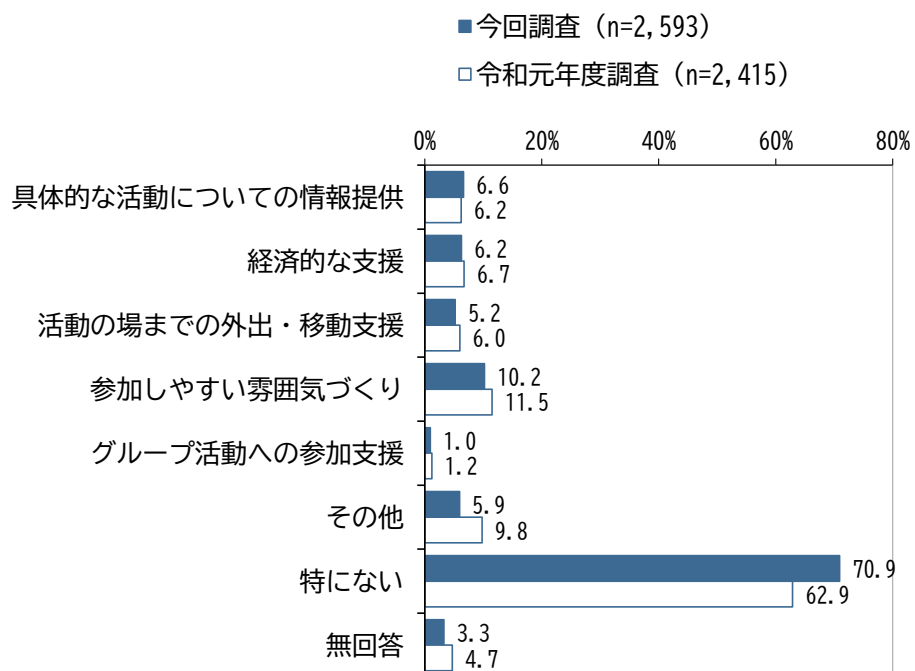
■参加者としての地域活動への参加意向【高齢者実態調査】



「参加したくない」と回答した方が地域活動に参加するために必要な行政の支援については、「特にない」が70.9%で最も高く、次いで「参加しやすい雰囲気づくり」が10.2%、「具体的な活動についての情報提供」が6.6%と続いています。

令和元(2019)年度調査と比較すると、「特にない」(70.9%)では、令和元(2019)年度調査(62.9%)より8.0ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

■地域活動に参加するために必要な行政の支援【高齢者実態調査】



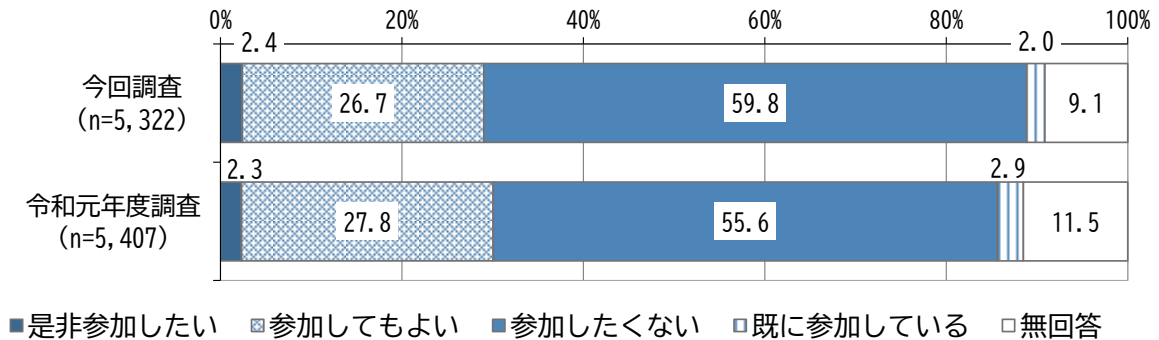
(4) 企画・運営としての地域活動への参加意向【高齢者実態調査】

企画・運営として、地域活動への参加意向がない人が増加している。

企画・運営としての地域活動への参加意向については、「参加したくない」が59.8%で最も高く、次いで「参加してもよい」が26.7%、「是非参加したい」が2.4%と続いています。

令和元（2019）年度調査と比較すると、「参加したくない」（59.8%）では、令和元（2019）年度調査（55.6%）より4.2ポイント増加しています。

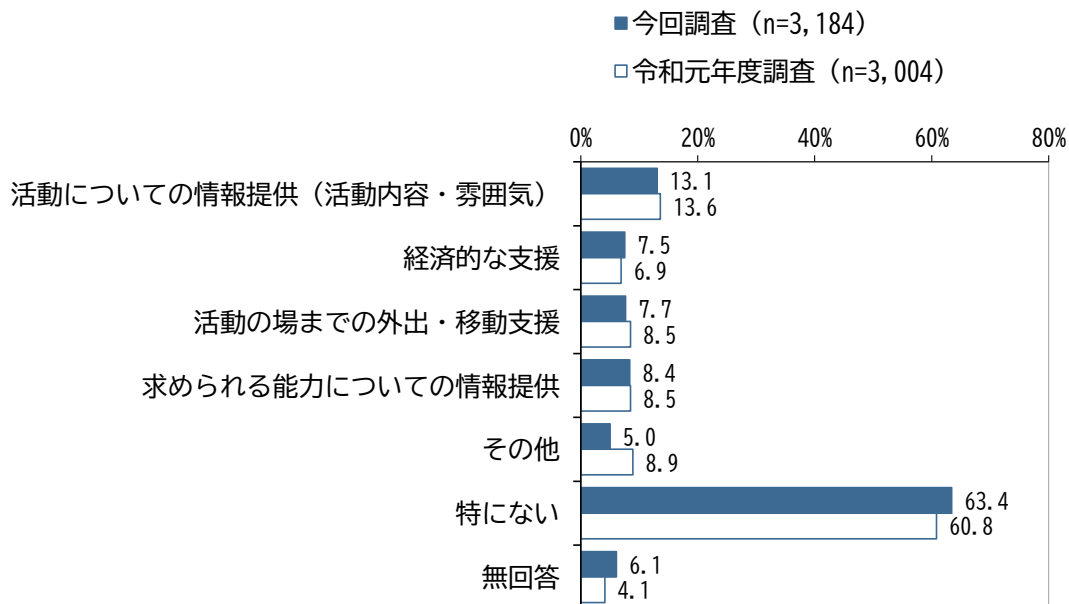
■企画・運営としての地域活動への参加意向【高齢者実態調査】



「参加したくない」と回答した方が企画・運営として地域活動に参加するために必要な行政の支援については、「特にない」が63.4%で最も高く、次いで「活動についての情報提供（活動内容・雰囲気）」が13.1%、「求められる能力についての情報提供」が8.4%と続いています。

令和元（2019）年度調査と比較すると、「その他」（5.0%）では、令和元（2019）年度調査（8.9%）より3.9ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

■企画・運営として地域活動に参加するために必要な行政の支援【高齢者実態調査】



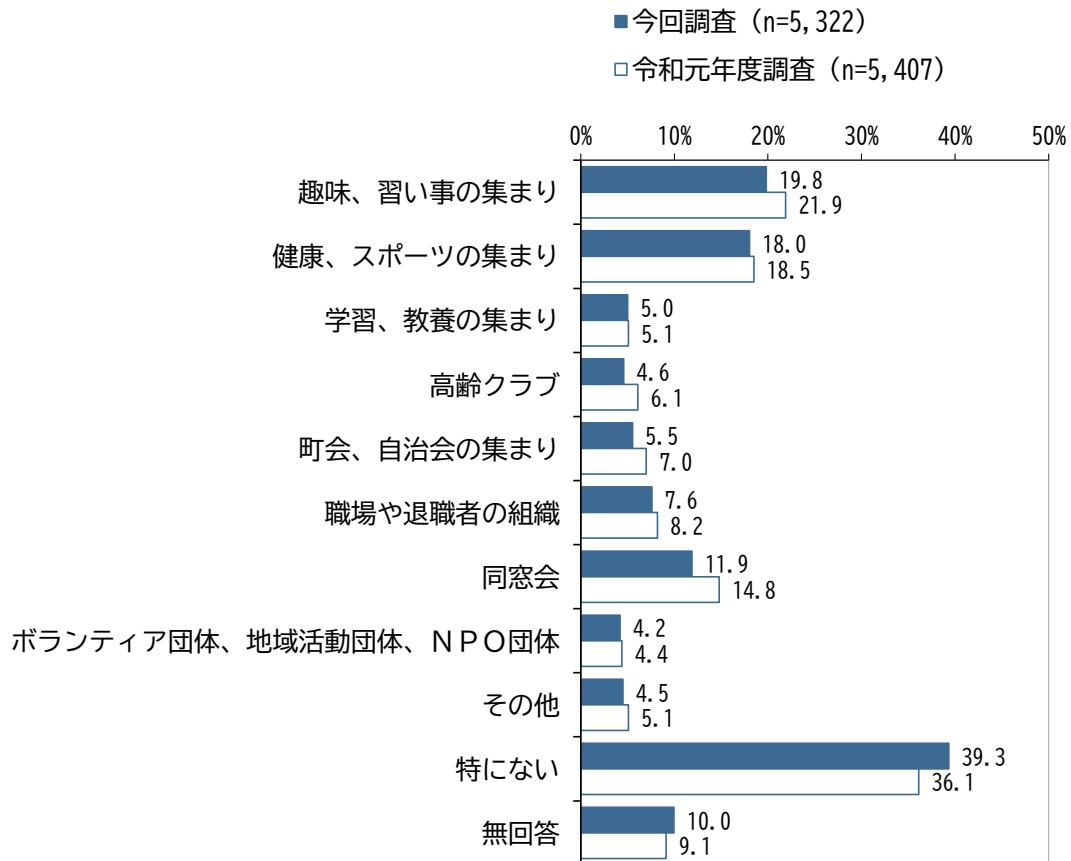
(5) 居場所を感じることができる集まりはあるか【高齢者実態調査】

居場所を感じることができる集まりがない人が増加している。

居場所を感じることができる集まりはあるかについては、「特にない」が39.3%で最も高く、次いで「趣味、習い事の集まり」が19.8%、「健康、スポーツの集まり」が18.0%と続いています。

令和元(2019)年度調査と比較すると、「特にない」(39.3%)では、令和元(2019)年度調査(36.1%)より3.2ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

■居場所を感じることができる集まりはあるか【高齢者実態調査】



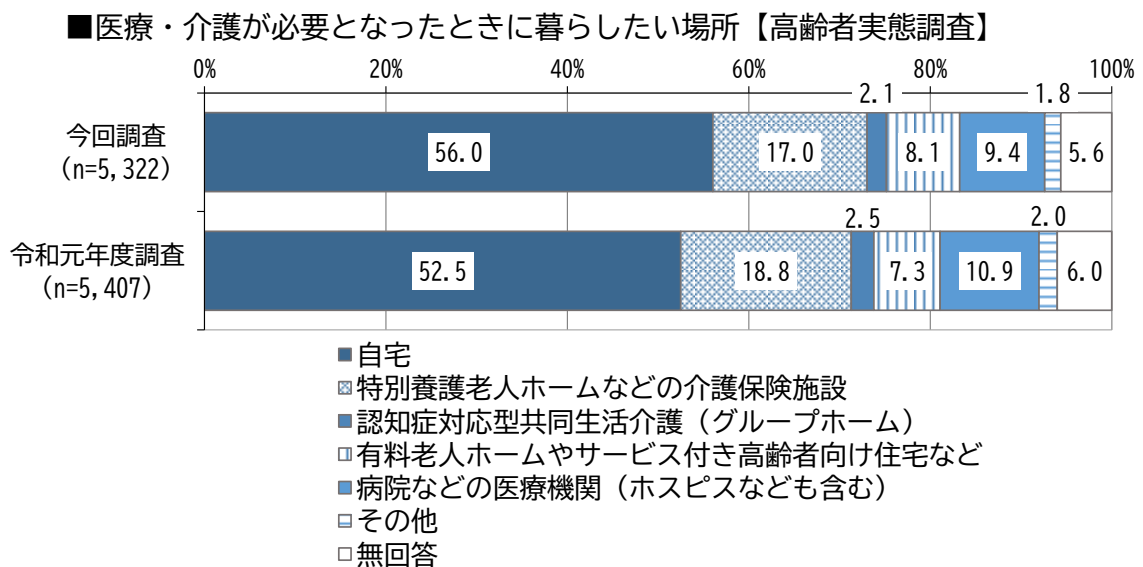
3 地域包括ケアシステムの構築に向けたニーズ

(1) 医療・介護が必要となったときに暮らしたい場所【高齢者実態調査】

医療・介護が必要となったときに自宅で暮らしたい人が増加している。

医療・介護が必要となったときに暮らしたい場所については、「自宅」が56.0%で最も高く、次いで「特別養護老人ホームなどの介護保険施設」が17.0%、「病院などの医療機関（ホスピスなども含む）」が9.4%と続いています。

令和元（2019）年度調査と比較すると、「自宅」（56.0%）では、令和元（2019）年度調査（52.5%）より3.5ポイント増加しています。

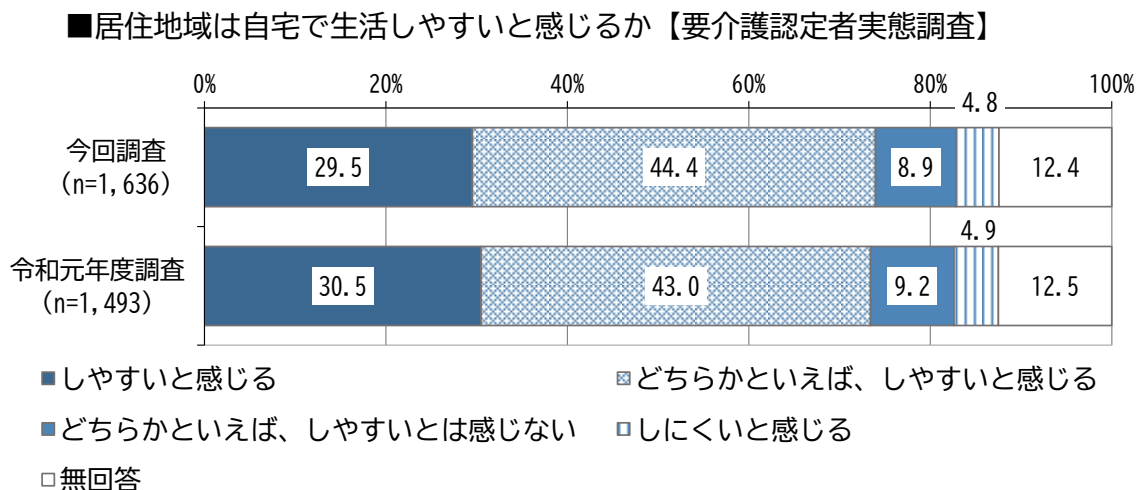


(2) 居住地は自宅で生活しやすいと感じるか【要介護認定者実態調査】

自宅で生活しやすいと感じる人が約7割で、令和元（2019）年度調査と大きな差はみられない。

居住地は自宅で生活しやすいと感じるかについては、「どちらかといえば、しやすいと感じる」が44.4%で最も高く、次いで「しやすいと感じる」が29.5%、「どちらかといえば、しやすいとは感じない」が8.9%と続いています。

令和元（2019）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。



(3) 居住地域は認知症の高齢者に対して理解があると感じるか

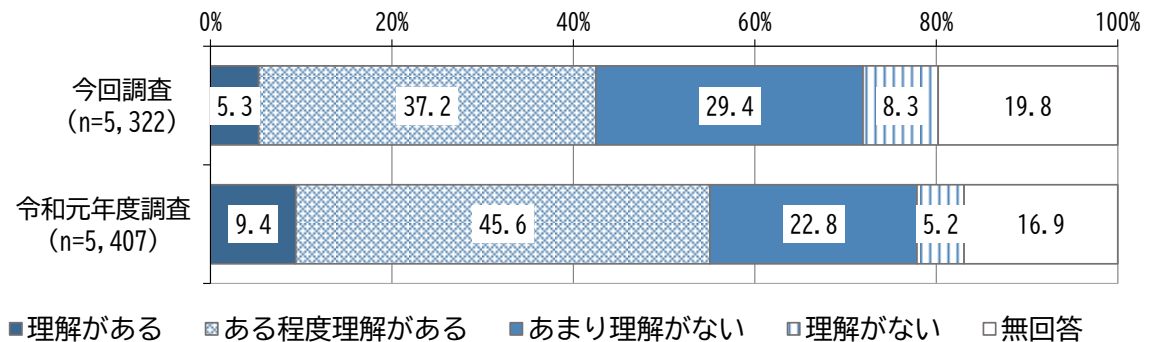
居住地域は認知症の高齢者に対して理解があると感じるかについて、高齢者実態調査は理解がないと感じる人が増加している一方、要介護認定者実態調査では令和元（2019）年度調査と大きな差はみられない。

① 高齢者実態調査

居住地域は認知症の高齢者に対して理解があると感じるかについては、「ある程度理解がある」が37.2%で最も高く、次いで「あまり理解がない」が29.4%、「理解がない」が8.3%と続いています。

令和元（2019）年度調査と比較すると、『理解がない』（「あまり理解がない」と「理解がない」の合計）（37.7%）では、令和元（2019）年度調査（28.0%）より9.7ポイント増加しています。

■居住地域は認知症の高齢者に対して理解があると感じるか【高齢者実態調査】

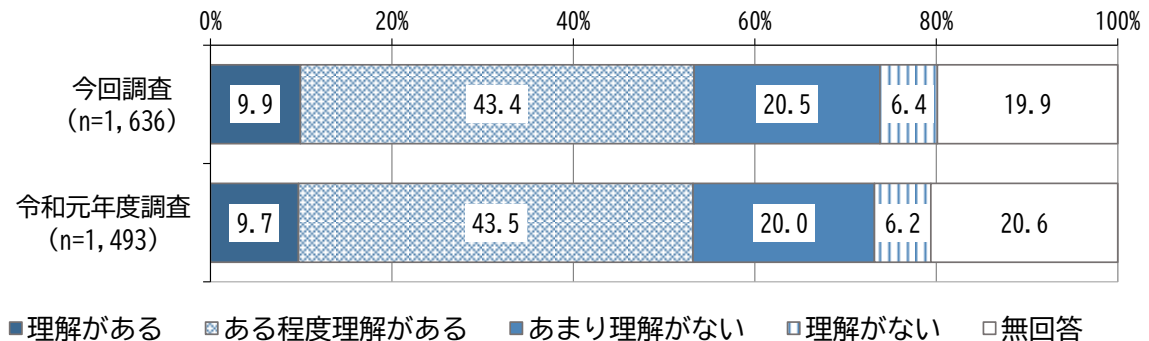


② 要介護認定者実態調査

居住地域は認知症の高齢者に対して理解があると感じるかについては、「ある程度理解がある」が43.4%で最も高く、次いで「あまり理解がない」が20.5%、「理解がある」が9.9%と続いています。

令和元（2019）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

■居住地域は認知症の高齢者に対して理解があると感じるか【要介護認定者実態調査】



(4) 居住地はボランティア活動が活発だと思うか

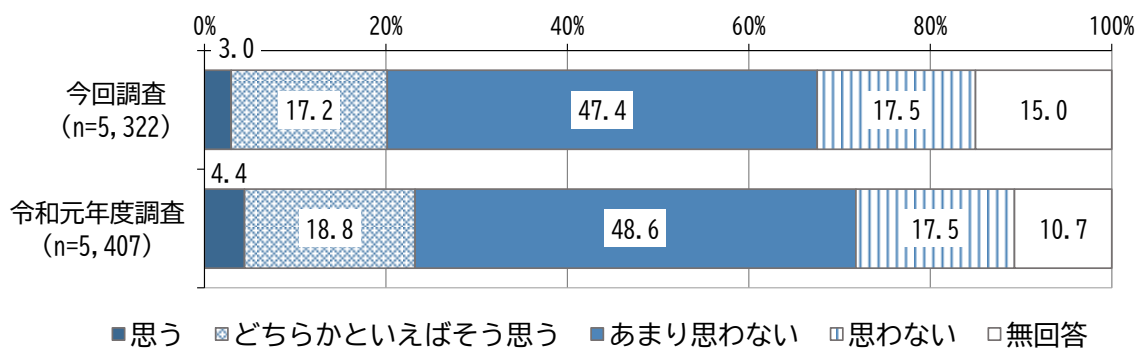
居住地はボランティア活動が活発だと思うかについて、高齢者実態調査はボランティア活動が活発だと思う人が減少している一方、要介護認定者実態調査では令和元（2019）年度調査と大きな差はみられない。

① 高齢者実態調査

居住地はボランティア活動が活発だと思うかについては、「あまり思わない」が47.4%で最も高く、次いで「思わない」が17.5%、「どちらかといえばそう思う」が17.2%と続いています。

令和元（2019）年度調査と比較すると、『思う』（「思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）（20.2%）では、令和元（2019）年度調査（23.2%）より3.0ポイント減少しています。

■居住地はボランティア活動が活発だと思うか【高齢者実態調査】

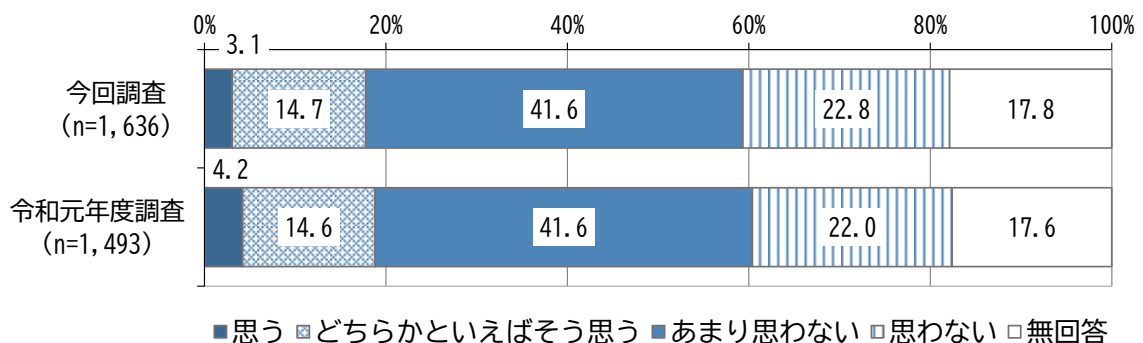


② 要介護認定者実態調査

居住地はボランティア活動が活発だと思うかについては、「あまり思わない」が41.6%で最も高く、次いで「思わない」が22.8%、「どちらかといえばそう思う」が14.7%と続いています。

令和元（2019）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

■居住地はボランティア活動が活発だと思うか【要介護認定者実態調査】



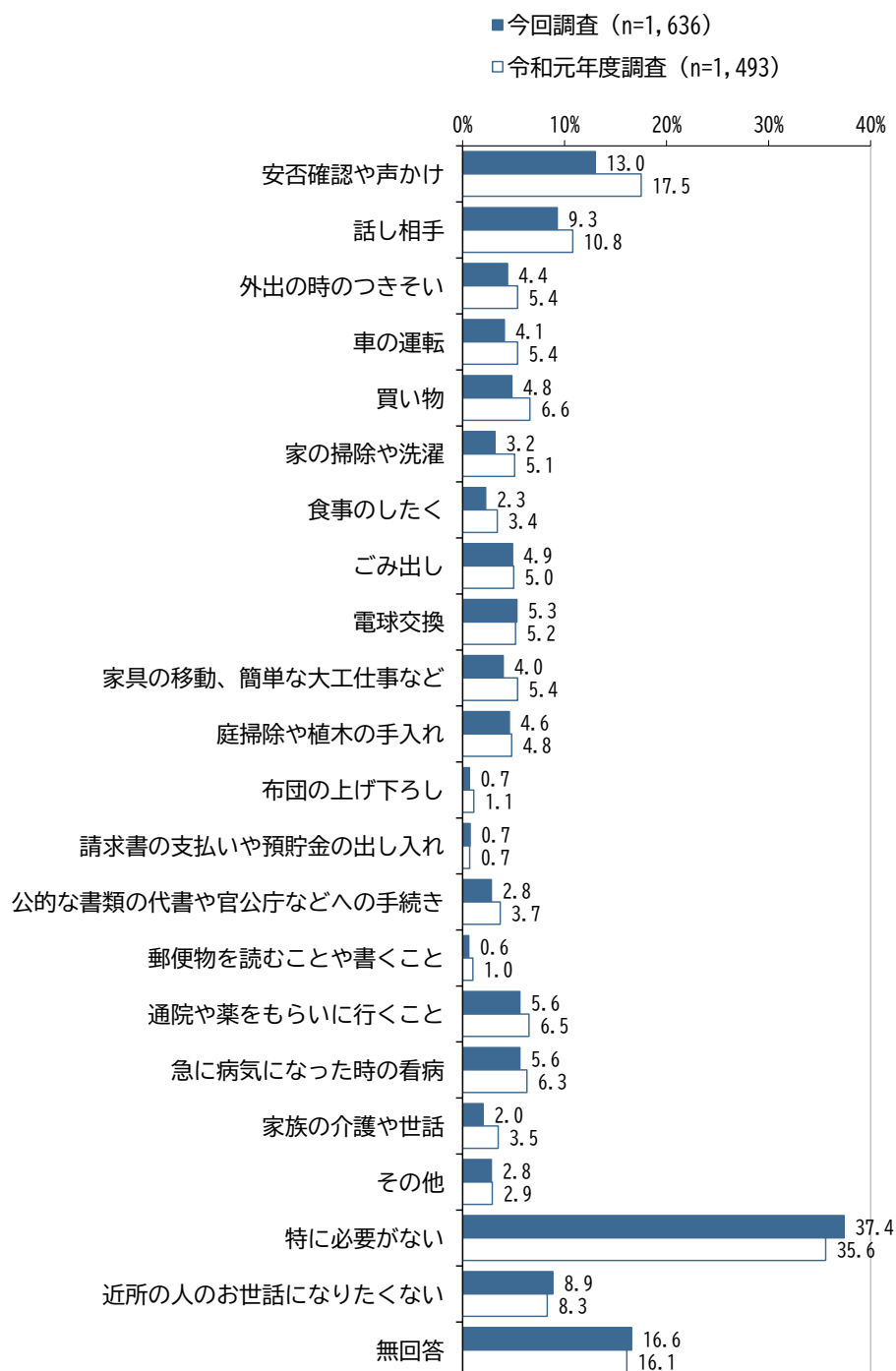
(5) 近所の人やボランティアに手助けしてほしいこと【要介護認定者実態調査】

近所の人やボランティアに手助けしてほしいことがないと回答した人が約4割。

近所の人やボランティアに手助けしてほしいことについては、「特に必要がない」が37.4%で最も高く、次いで「安否確認や声かけ」が13.0%、「話し相手」が9.3%と続いています。

令和元（2019）年度調査と比較すると、「安否確認や声かけ」（13.0%）では、令和元（2019）年度調査（17.5%）より4.5ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

■近所の人やボランティアに手助けしてほしいこと【要介護認定者実態調査】



(6) 高齢者あんしんセンターの認知度と利用経験

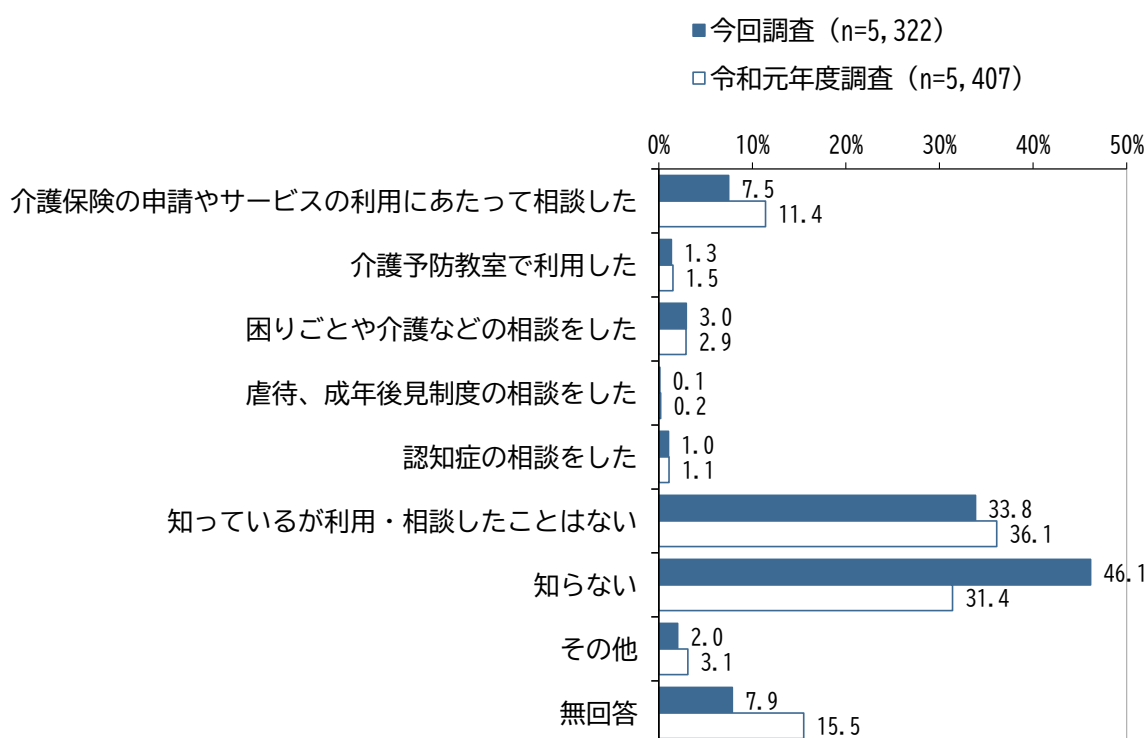
高齢者あんしんセンターを知らない人については、高齢者実態調査では約5割、要介護認定者実態調査では約4割で、令和元(2019)年度調査より増加している。

① 高齢者実態調査

高齢者あんしんセンターの認知度と利用経験については、「知らない」が46.1%で最も高く、次いで「知っているが利用・相談したことはない」が33.8%、「介護保険の申請やサービスの利用にあたって相談した」が7.5%と続いています。

令和元(2019)年度調査と比較すると、「知らない」(46.1%)では、令和元(2019)年度調査(31.4%)より14.7ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

■ 高齢者あんしんセンターの認知度と利用経験【高齢者実態調査】

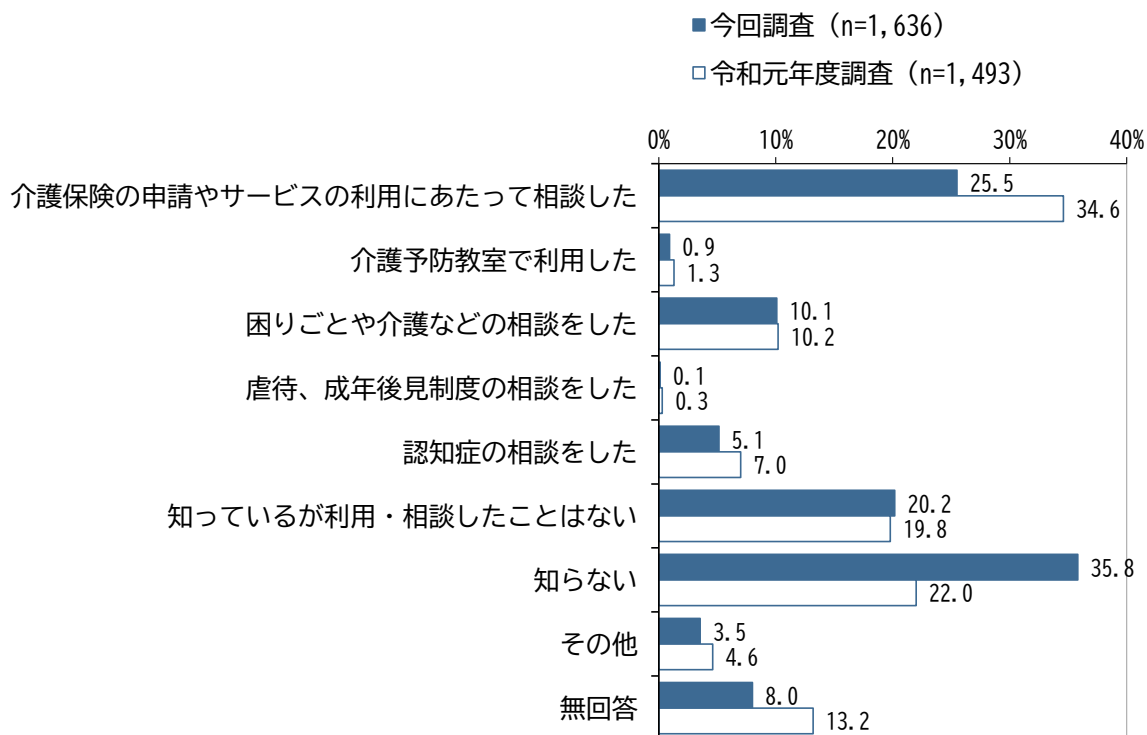


② 要介護認定者実態調査

高齢者あんしんセンターの認知度と利用経験については、「知らない」が35.8%で最も高く、次いで「介護保険の申請やサービスの利用にあたって相談した」が25.5%、「知っているが利用・相談したことはない」が20.2%と続いています。

令和元(2019)年度調査と比較すると、「知らない」(35.8%)では、令和元(2019)年度調査(22.0%)より13.8ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

■高齢者あんしんセンターの認知度と利用経験【要介護認定者実態調査】



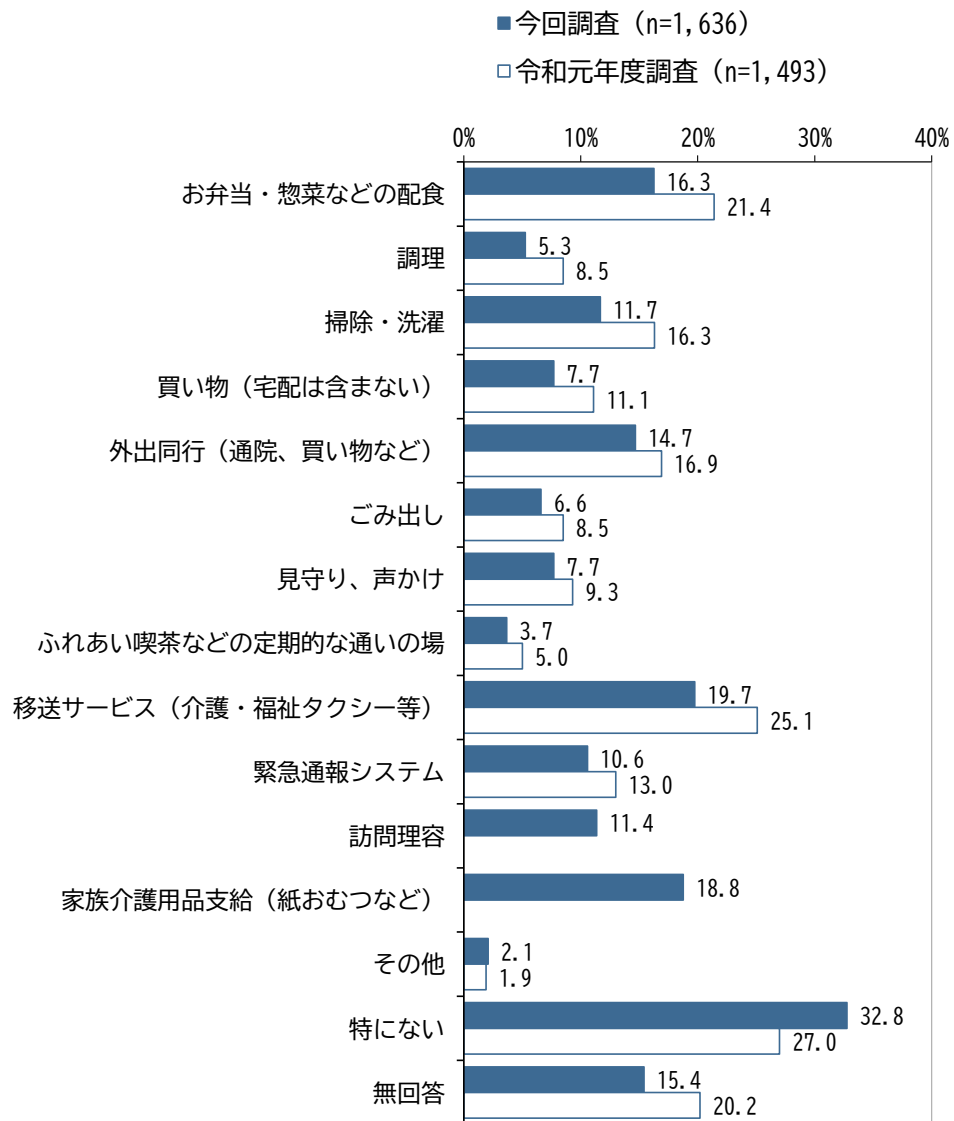
(7) 介護保険サービス以外で在宅生活のために利用したいサービス 【要介護認定者実態調査】

介護保険サービス以外で在宅生活のために利用したいサービスがない人が増加している。

介護保険サービス以外で在宅生活のために利用したいサービスについては、「特にない」が32.8%で最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が19.7%、「家族介護用品支給（紙おむつなど）」が18.8%と続いています。

令和元(2019)年度調査と比較できる項目で比較すると、「特にない」(32.8%)では、令和元(2019)年度調査(27.0%)より5.8ポイント増加しています。

■介護保険サービス以外で在宅生活のために利用したいサービス【要介護認定者実態調査】



※ 「訪問理容」、「家族介護用品支給（紙おむつなど）」は今回調査からの選択肢。

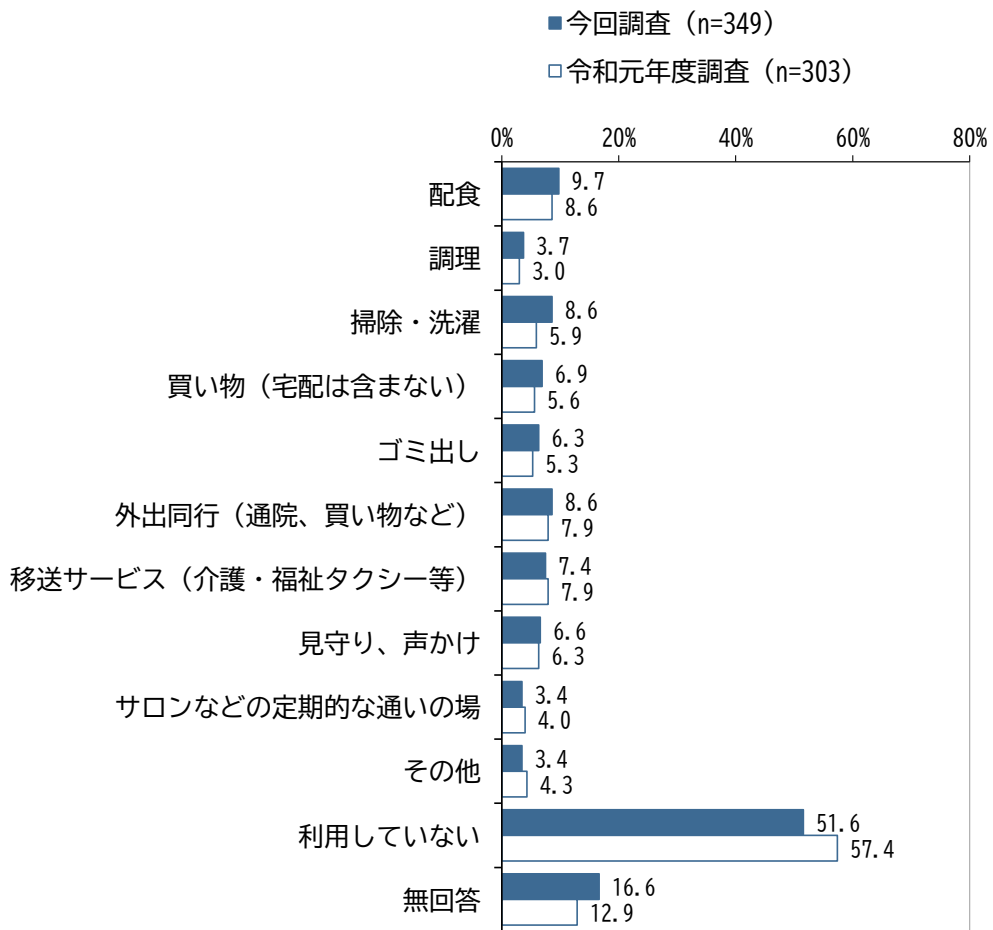
(8) 保険外の支援・サービスの利用状況【在宅介護実態調査】

保険外の支援・サービスを利用していない人が減少している。

保険外の支援・サービスの利用状況については、「利用していない」が51.6%で最も高く、次いで「配食」が9.7%、「掃除・洗濯」、「外出同行（通院、買い物など）」がいずれも8.6%と続いています。

令和元（2019）年度調査と比較すると、「利用していない」（51.6%）では、令和元（2019）年度調査（57.4%）より5.8ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

■保険外の支援・サービスの利用状況【在宅介護実態調査】



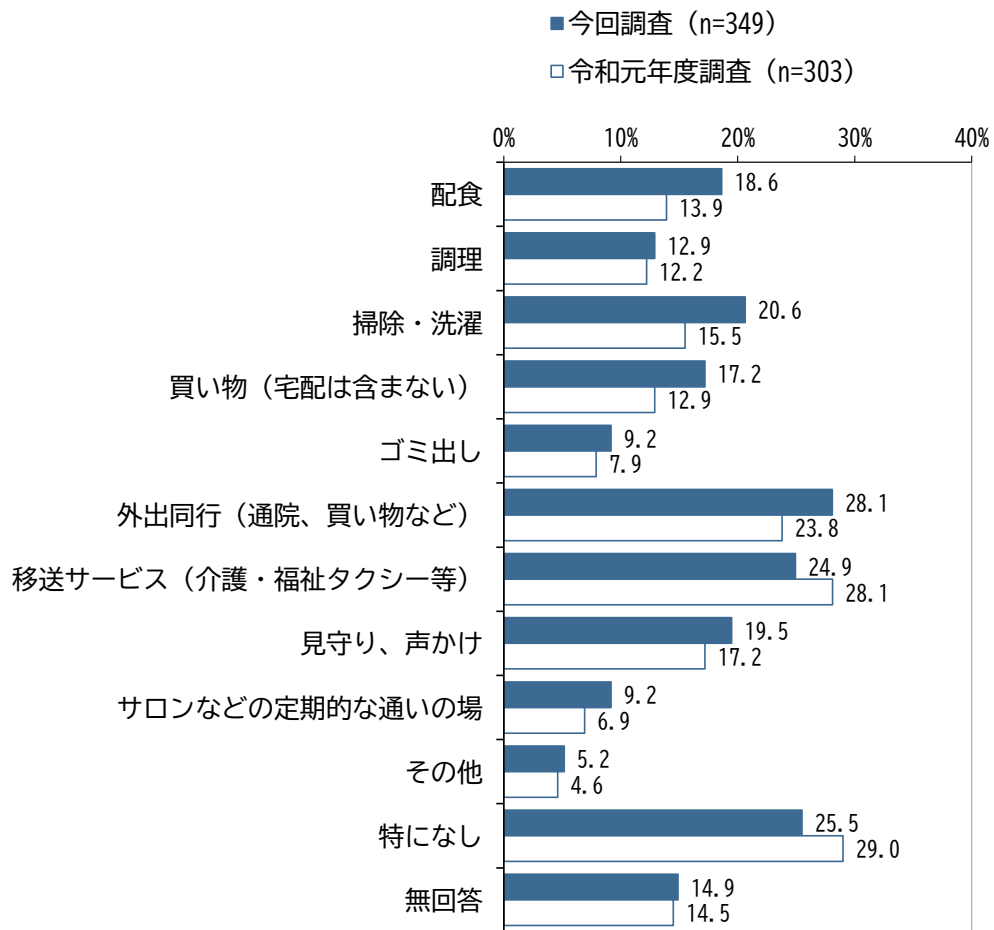
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス【在宅介護実態調査】

在宅生活の継続のために、外出同行サービスの充実が最も求められている。

在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービスについては、「外出同行（通院、買い物など）」が28.1%で最も高く、次いで「特になし」が25.5%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が24.9%と続いています。

令和元（2019）年度調査と比較すると、「掃除・洗濯」（20.6%）では、令和元（2019）年度調査（15.5%）より5.1ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

■在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス【在宅介護実態調査】



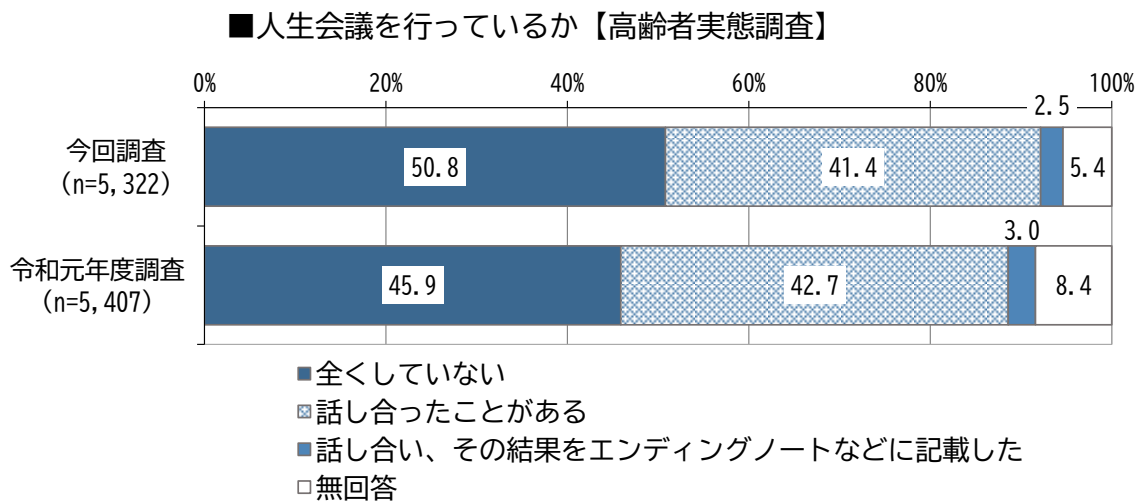
(10) 人生会議を行っているか

人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）を行っていない人が高齢者実態調査、要介護認定者実態調査いずれも5割を超えている。

① 高齢者実態調査

人生会議を行っているかについては、「全くしていない」が50.8%で最も高く、次いで「話し合ったことがある」が41.4%、「話し合い、その結果をエンディングノートなどに記載した」が2.5%となっています。

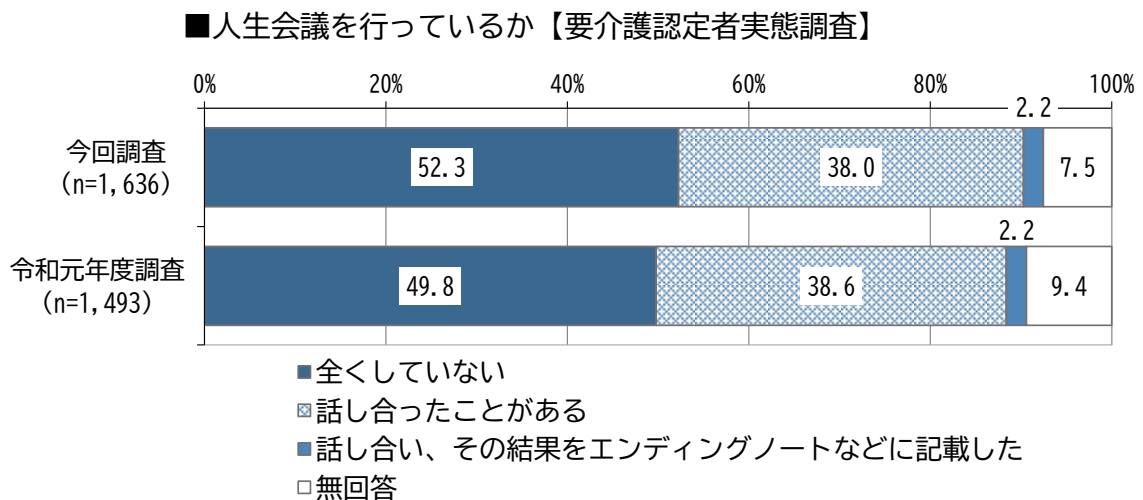
令和元（2019）年度調査と比較すると、「全くしていない」（50.8%）では、令和元（2019）年度調査（45.9%）より4.9ポイント増加しています。



② 要介護認定者実態調査

人生会議を行っているかについては、「全くしていない」が52.3%で最も高く、次いで「話し合ったことがある」が38.0%、「話し合い、その結果をエンディングノートなどに記載した」が2.2%となっています。

令和元（2019）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。



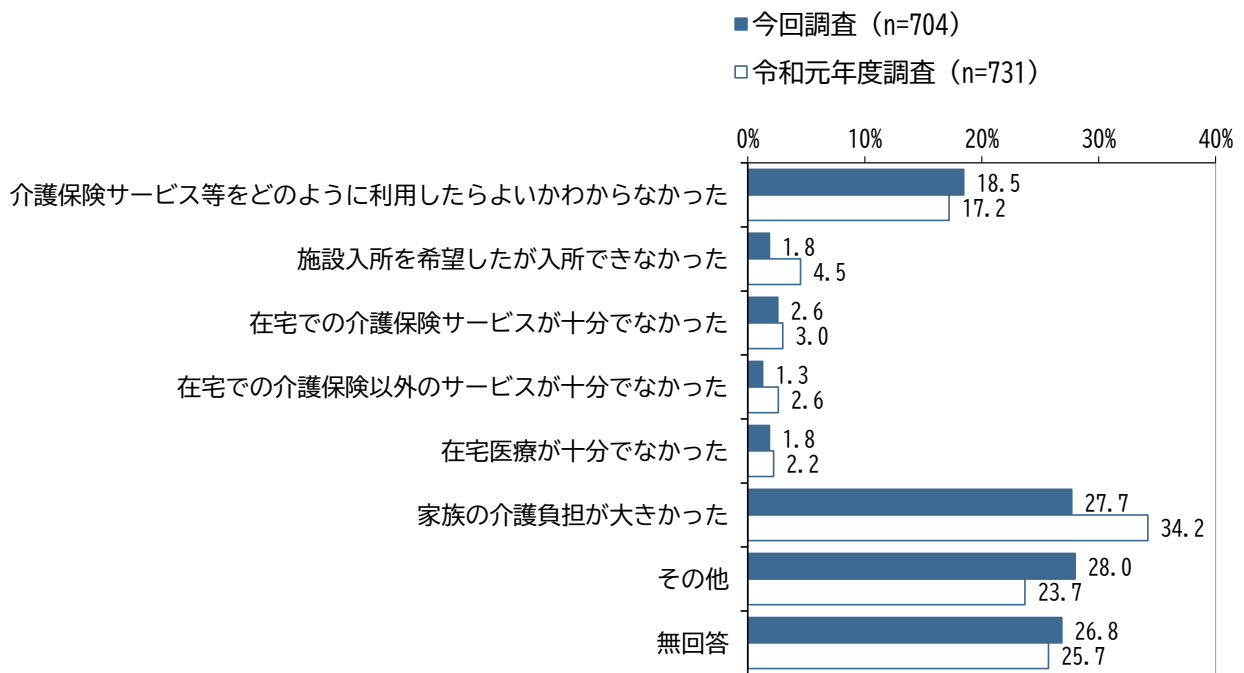
(11) 退院後介護保険サービスへの移行や連携で困ったこと

退院後、介護保険サービスへの移行や連携で、家族の負担が大きかった人は約3割で、令和元（2019）年度調査より減少している。

過去2年間に入院したことがある方が、退院後介護保険サービスへの移行や連携で困ったことについては、「その他」が28.0%で最も高く、次いで「家族の介護負担が大きかった」が27.7%、「介護保険サービス等をどのように利用したらよいかわからなかった」が18.5%と続いています。

令和元（2019）年度調査と比較すると、「家族の介護負担が大きかった」（27.7%）では、令和元（2019）年度調査（34.2%）より6.5ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

■退院後介護保険サービスへの移行や連携で困ったこと【要介護認定者実態調査】

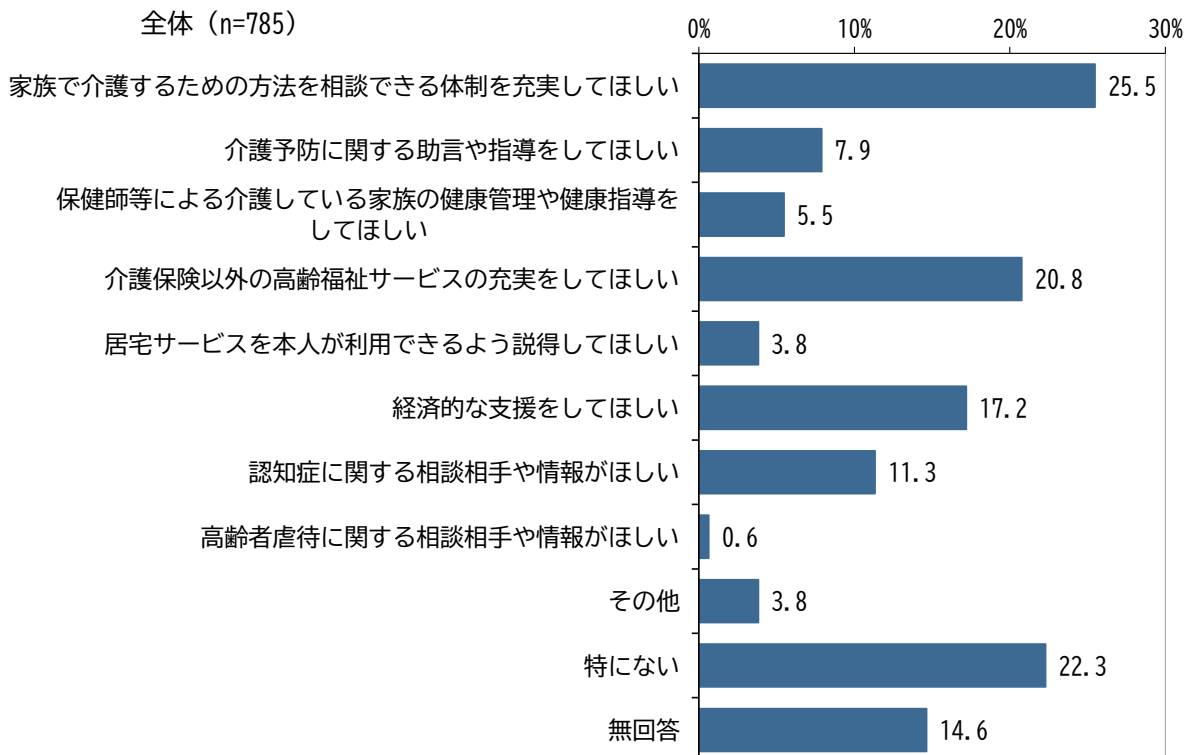


(12) 介護に関して支援してほしいこと【要介護認定者実態調査】

主な介護者が介護に関して支援してほしいことについては、「家族で介護するための方法を相談できる体制を充実してほしい」、「介護保険以外の高齢福祉サービスの充実をしてほしい」の割合が高い。

主な介護者が介護に関して支援してほしいことについては、「家族で介護するための方法を相談できる体制を充実してほしい」が25.5%で最も高く、次いで「特になし」が22.3%、「介護保険以外の高齢福祉サービスの充実をしてほしい」が20.8%と続いています。

■介護に関して支援してほしいこと（自宅で介護を受けている方のみ）【要介護認定者実態調査】



4 介護サービスのニーズ

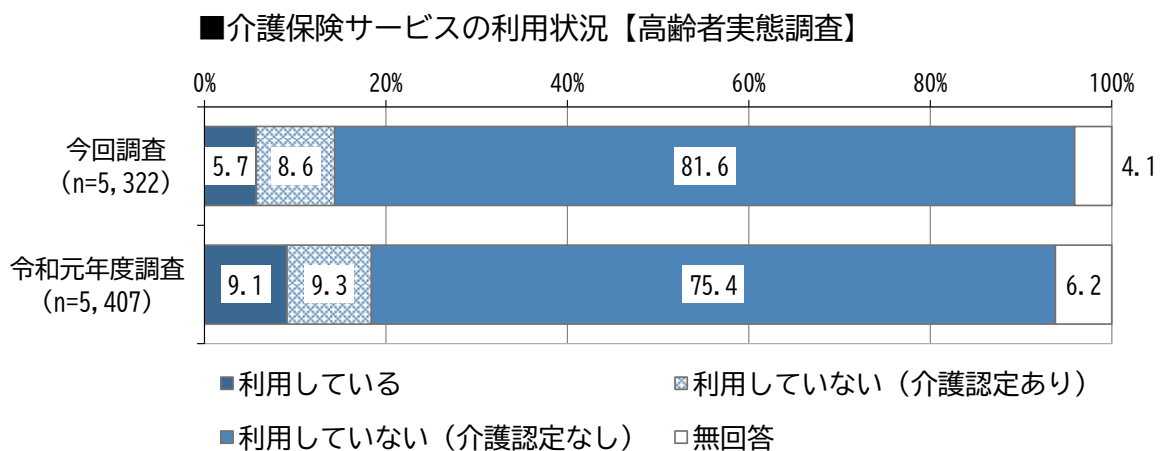
(1) 介護保険サービスの利用状況

訪問看護の利用が、令和元（2019）年度調査より最も増加している。

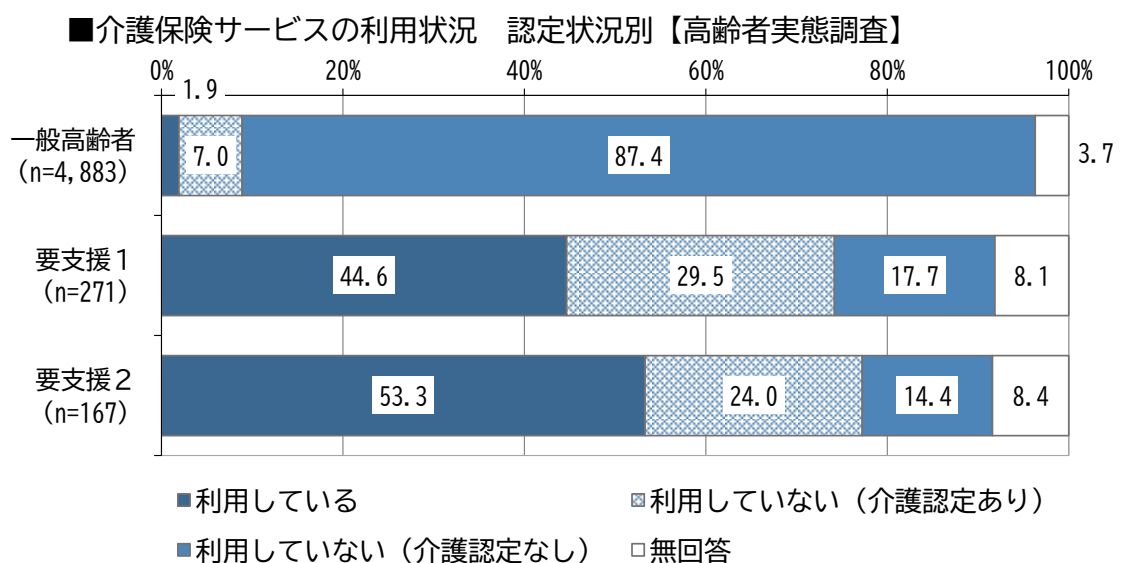
① 高齢者実態調査

介護保険サービスの利用状況については、「利用していない（介護認定なし）」が81.6%で最も高く、次いで「利用していない（介護認定あり）」が8.6%、「利用している」が5.7%となっています。

令和元（2019）年度調査と比較すると、「利用している」（5.7%）では、令和元（2019）年度調査（9.1%）より3.4ポイント減少しています。



認定状況別でみると、「利用している」では、要介護度が上がるにつれて割合が増加しており、要支援2が53.3%で最も高くなっています。

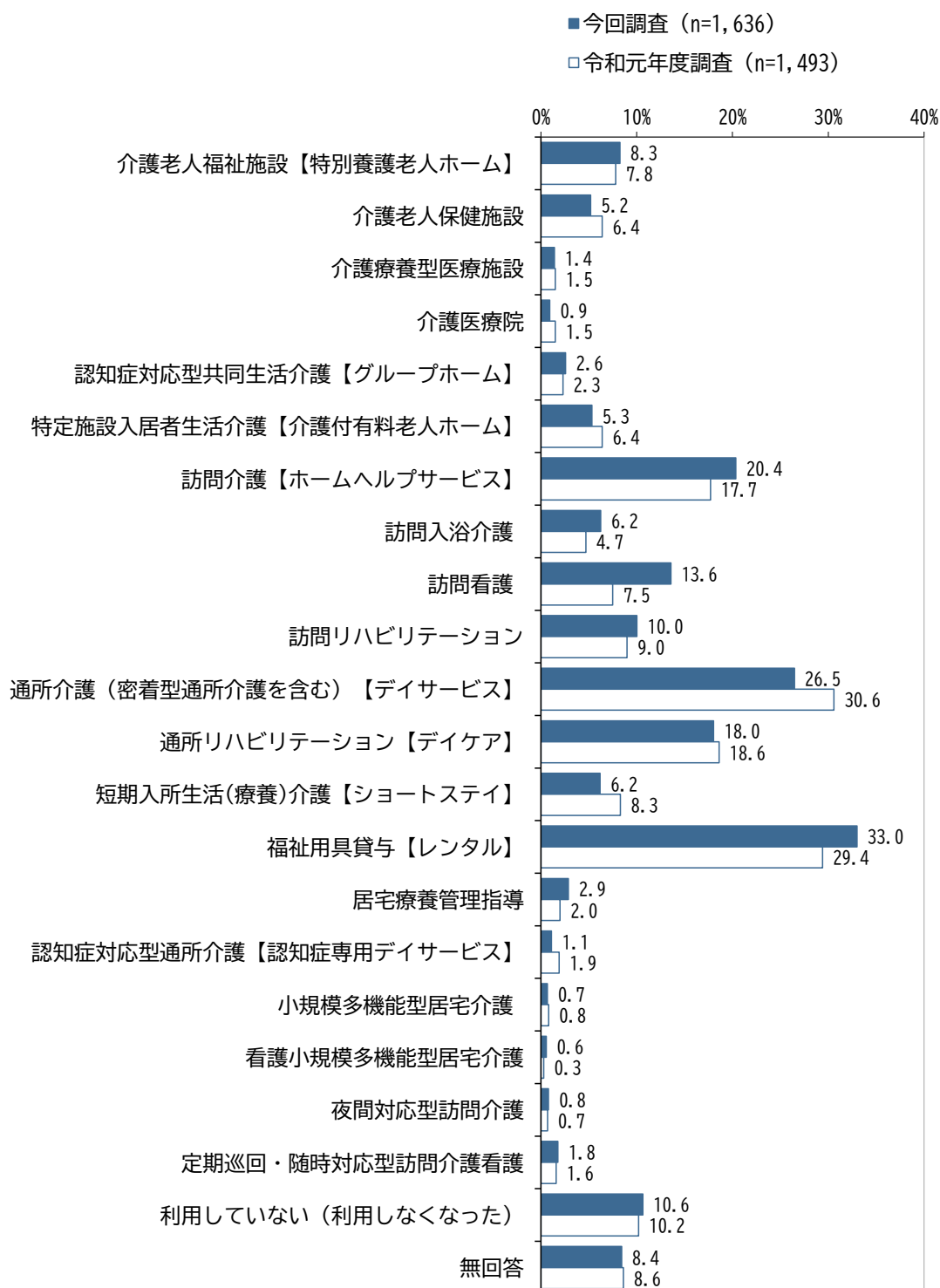


② 要介護認定者実態調査

介護保険サービスの利用状況については、「福祉用具貸与【レンタル】」が33.0%で最も高く、次いで「通所介護（密着型通所介護を含む）【デイサービス】」が26.5%、「訪問介護【ホームヘルプサービス】」が20.4%と続いています。

令和元(2019)年度調査と比較すると、「訪問看護」(13.6%)では、令和元(2019)年度調査(7.5%)より6.1ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

■介護保険サービスの利用状況【要介護認定者実態調査】



(2) 介護保険サービスで身近にあれば利用したいサービス

要介護1から要介護4では小規模多機能型居宅介護のニーズが最も高く、要介護5では定期巡回・随時対応型訪問介護看護のニーズが高い。

介護保険サービスで身近にあれば利用したいサービスについて、自宅で介護を受けている方では、「住み慣れた地域にあるデイサービス（通い）を中心に利用しながら、必要に応じてなじみの職員が訪問したり、短期の宿泊ができる多機能型サービス（小規模多機能型居宅介護）」が48.1%で最も高く、次いで「24時間を通じて訪問介護と訪問看護を一体的に行う定期巡回と合わせて、必要な時に随時サービスを受けられるホームヘルプサービス（定期巡回・随時対応型訪問介護看護）」が23.5%、「わからない」が21.7%と続いています。

認定状況別でみると、要介護5では「24時間を通じて訪問介護と訪問看護を一体的に行う定期巡回と合わせて、必要な時に随時サービスを受けられるホームヘルプサービス（定期巡回・随時対応型訪問介護看護）」の割合が最も高く、それ以外の認定状況では「住み慣れた地域にあるデイサービス（通い）を中心に利用しながら、必要に応じてなじみの職員が訪問したり、短期の宿泊ができる多機能型サービス（小規模多機能型居宅介護）」の割合が最も高くなっています。

■介護保険サービスで身近にあれば利用したいサービス（自宅で介護を受けている方のみ）

【要介護認定者実態調査】

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	住み慣れた地域にあるデイサービス（小規模多機能型居宅介護）	小規模多機能型居宅介護	訪問介護と訪問看護を組み合わせるホームヘルプサービス	24時間を通じて訪問介護と訪問看護を一体的に行う定期巡回と合わせて、必要な時に随時サービスを受けられるホームヘルプサービス	その他	わからない	無回答
全体	493	48.1	21.3	8.5	23.5	3.2	21.7	7.5
要介護者の年齢別	65～69歳	15	60.0	33.3	6.7	40.0	6.7	6.7
	70～74歳	45	37.8	24.4	4.4	17.8	0.0	31.1
	75～79歳	102	43.1	16.7	5.9	22.5	2.0	24.5
	80～84歳	129	55.0	17.8	7.0	20.9	3.9	19.4
	85歳以上	188	47.9	24.5	12.2	26.6	4.3	20.7
認定状況別	要介護1	162	52.5	18.5	5.6	21.6	3.7	20.4
	要介護2	133	51.9	21.1	7.5	22.6	3.0	22.6
	要介護3	78	47.4	25.6	11.5	28.2	3.8	15.4
	要介護4	61	44.3	16.4	11.5	19.7	0.0	29.5
	要介護5	42	33.3	28.6	9.5	35.7	7.1	14.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

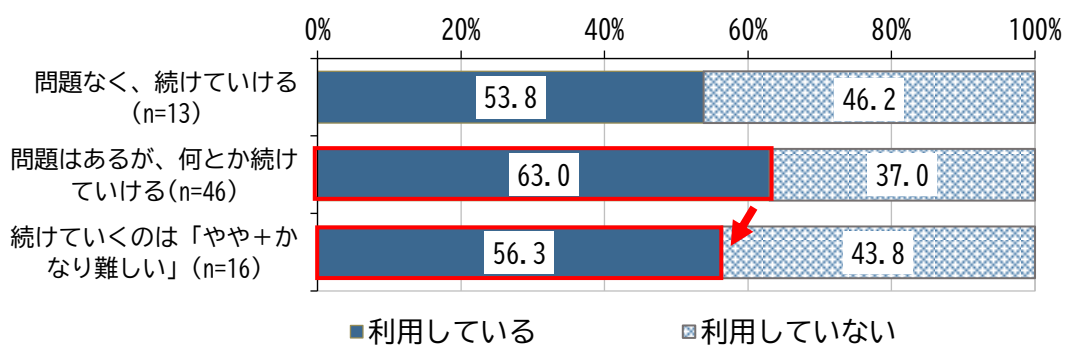
5 介護者の就労継続や在宅生活の継続に効果的なサービス利用の動向などについて【在宅介護実態調査】

(1) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

① 必要となるサービスの詳細な把握と、適切なサービス利用の推進

介護保険サービスの利用状況について、就労継続見込みを「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」と考えている人では、「問題はあるが、何とか続けていける」人に比べて、介護保険サービスの利用割合が低くなっていました。

■介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務+パートタイム勤務） 就労継続見込み別 【在宅介護実態調査】

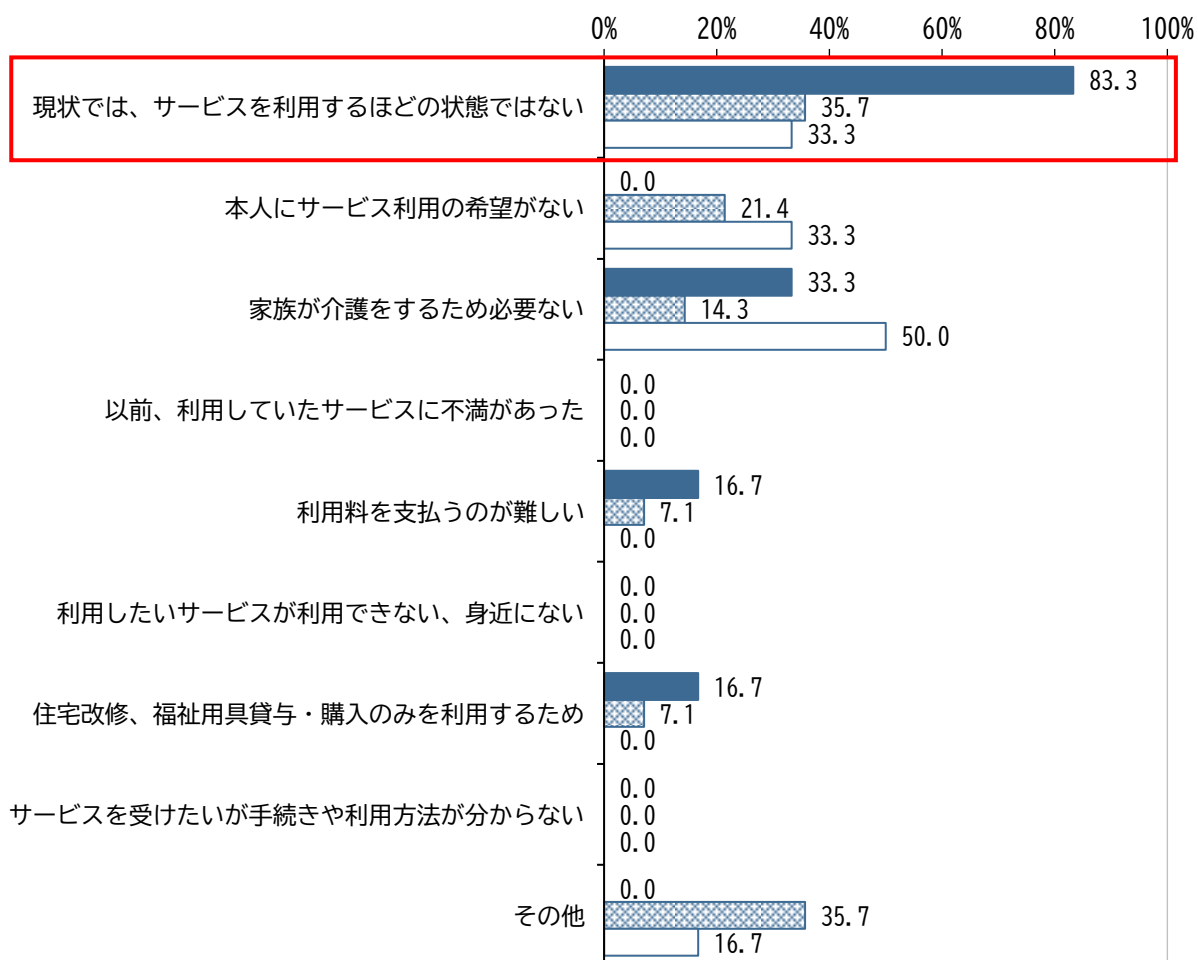


就労継続見込みを「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」と考えている人では、サービス未利用の理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状況ではない」の割合も低く、実際には、サービス利用の必要性が高いにもかかわらず、サービスが利用されていないことがうかがえました。

■サービス未利用の理由（フルタイム勤務+パート勤務） 就労継続見込み別

【在宅介護実態調査】

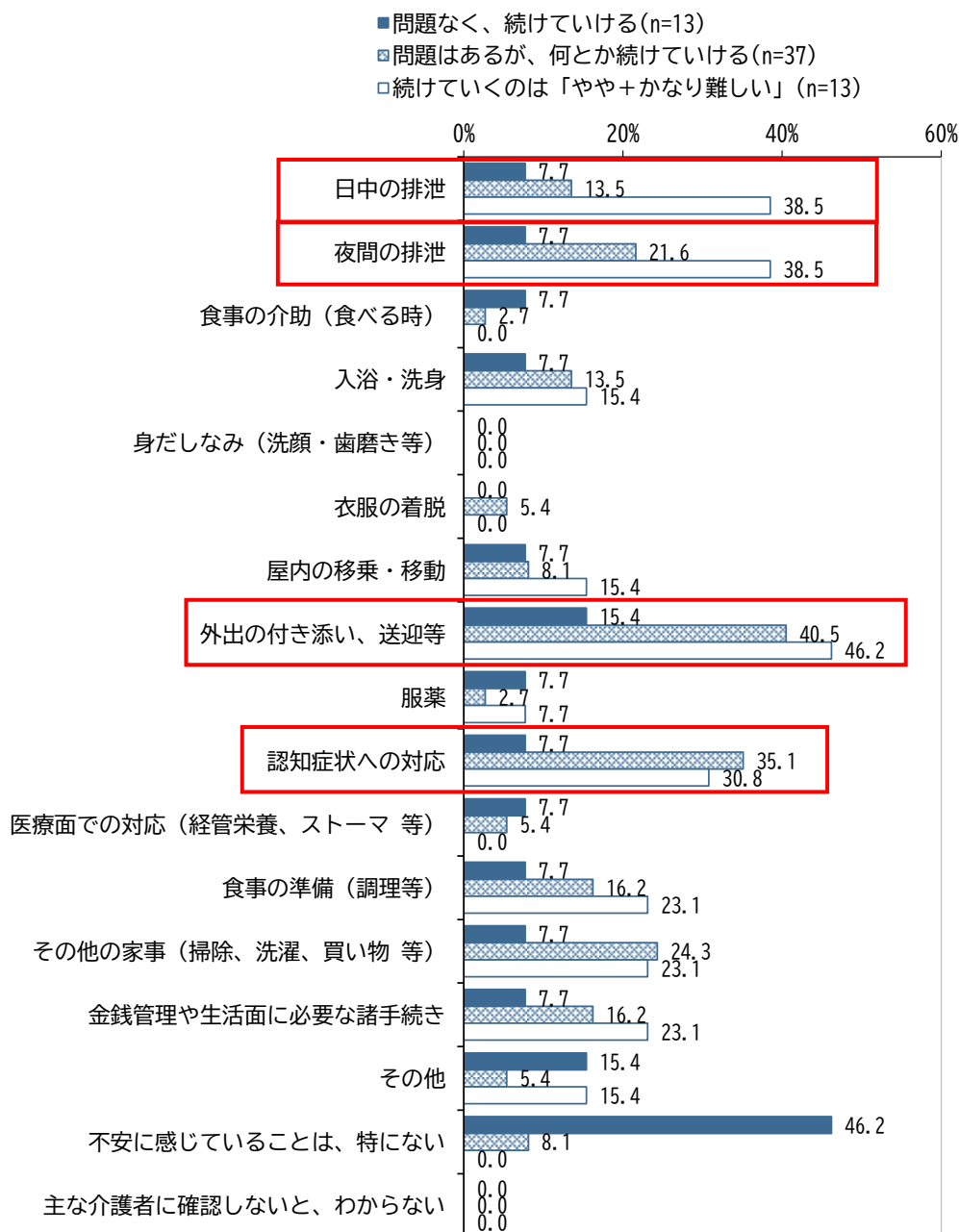
- 問題なく、続けていける(n=6)
- ▨問題はあるが、何とか続けていける(n=14)
- 続けていくのは「やや+かなり難しい」(n=6)



また、就労継続見込みを「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」と考えている人では、「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」の割合が高くなっていました。

■介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務） 就労継続見込み別

【在宅介護実態調査】



就労継続が難しいと考える介護者においては、適切なサービスを利用するための体制構築が不十分である可能性が高いと考えられ、介護者が必要となるサービスの詳細な把握と、そのサービス利用の推進を図っていく必要があります。

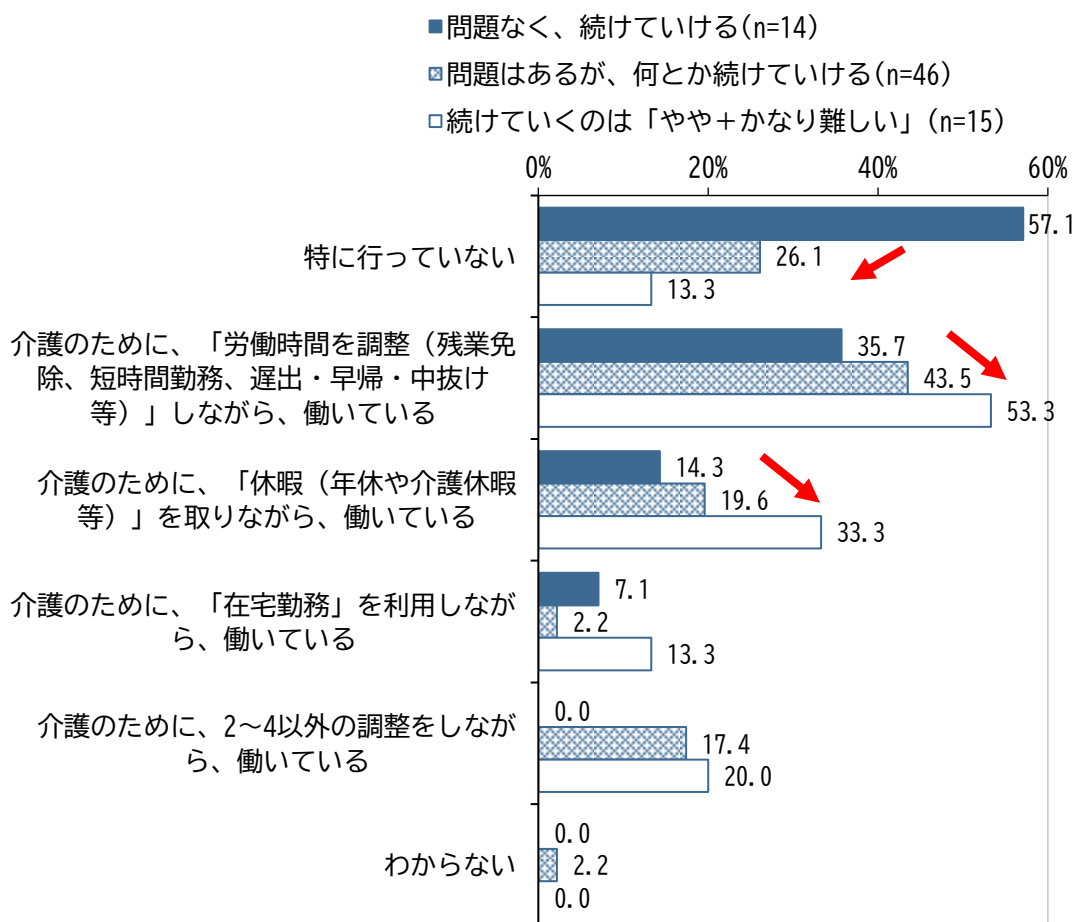
② 仕事と介護の両立に向けた、職場における支援・サービスの検討

介護のための働き方の調整について、「問題なく、続けていける」と考えている方では、そうでない方に比べて、「労働時間の調整」、「休暇取得」、「在宅勤務」などの調整をしながら働いている割合が低い傾向がみられました。

一方、「問題はあるが、何とか続けていける」と考えている方では、「労働時間の調整」、「休暇の取得」など、何らかの調整を行っている方が多くなっていました。

■介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務） 就労継続見込み別

【在宅介護実態調査】



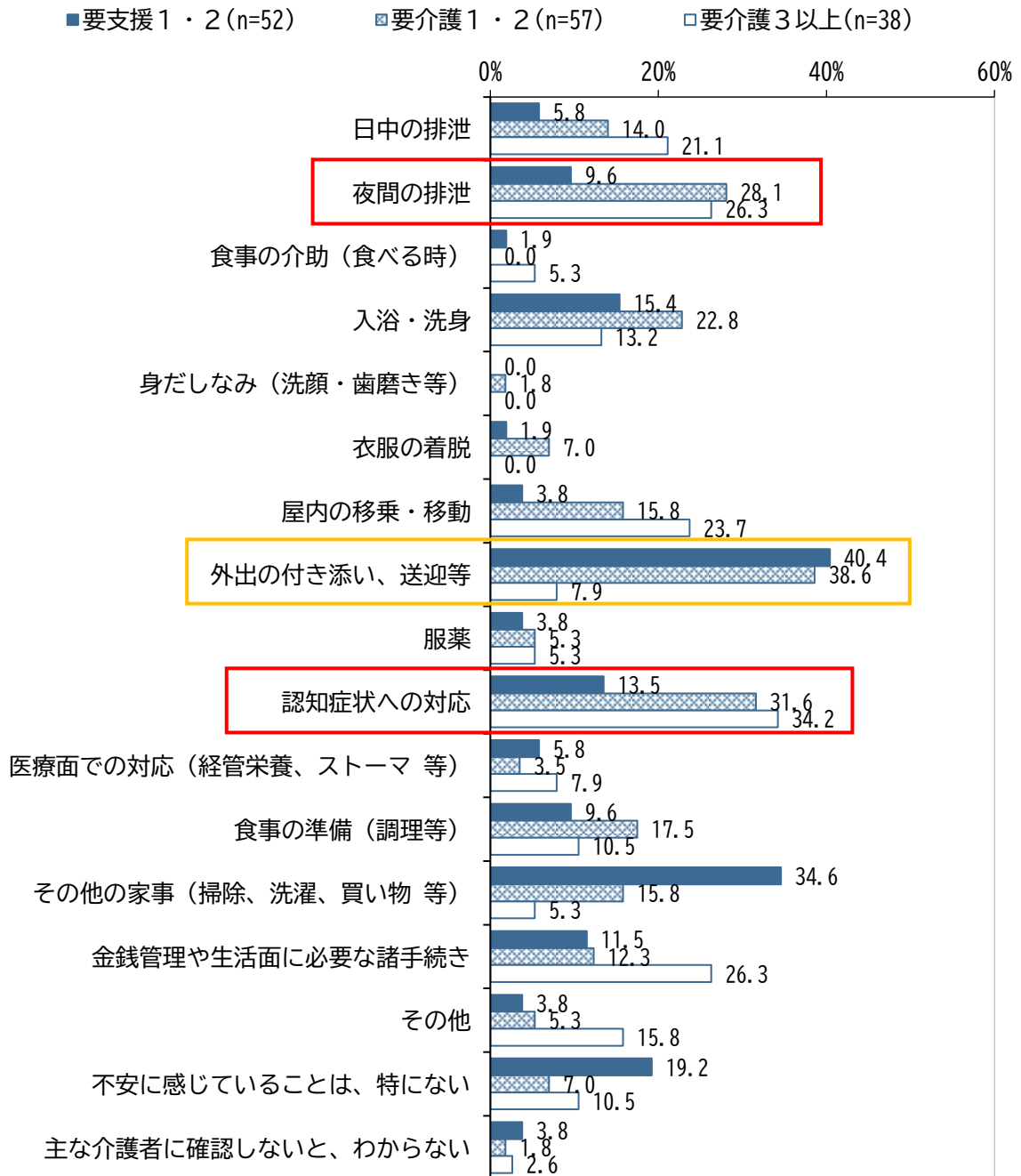
介護のために何らかの調整が必要となった場合は、介護休業・介護休暇等の取得や、所定外労働の免除・短時間勤務等による労働時間の調整など、介護の状況に応じて必要な制度が、必要な期間、利用できることが重要です。企業が介護休業等の両立支援制度を導入するだけでなく、従業員に対して情報提供を行い、職場理解を促進することが有用だと考えられます。また、介護について相談しやすい雰囲気醸成とともに、働き方の見直しを通じ、介護等の時間的制約を持ちながら働く人を受け入れることが可能な職場づくりを日頃から進めておくことが、介護に直面した従業員の離職防止のために効果的であると考えられます。

(2) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

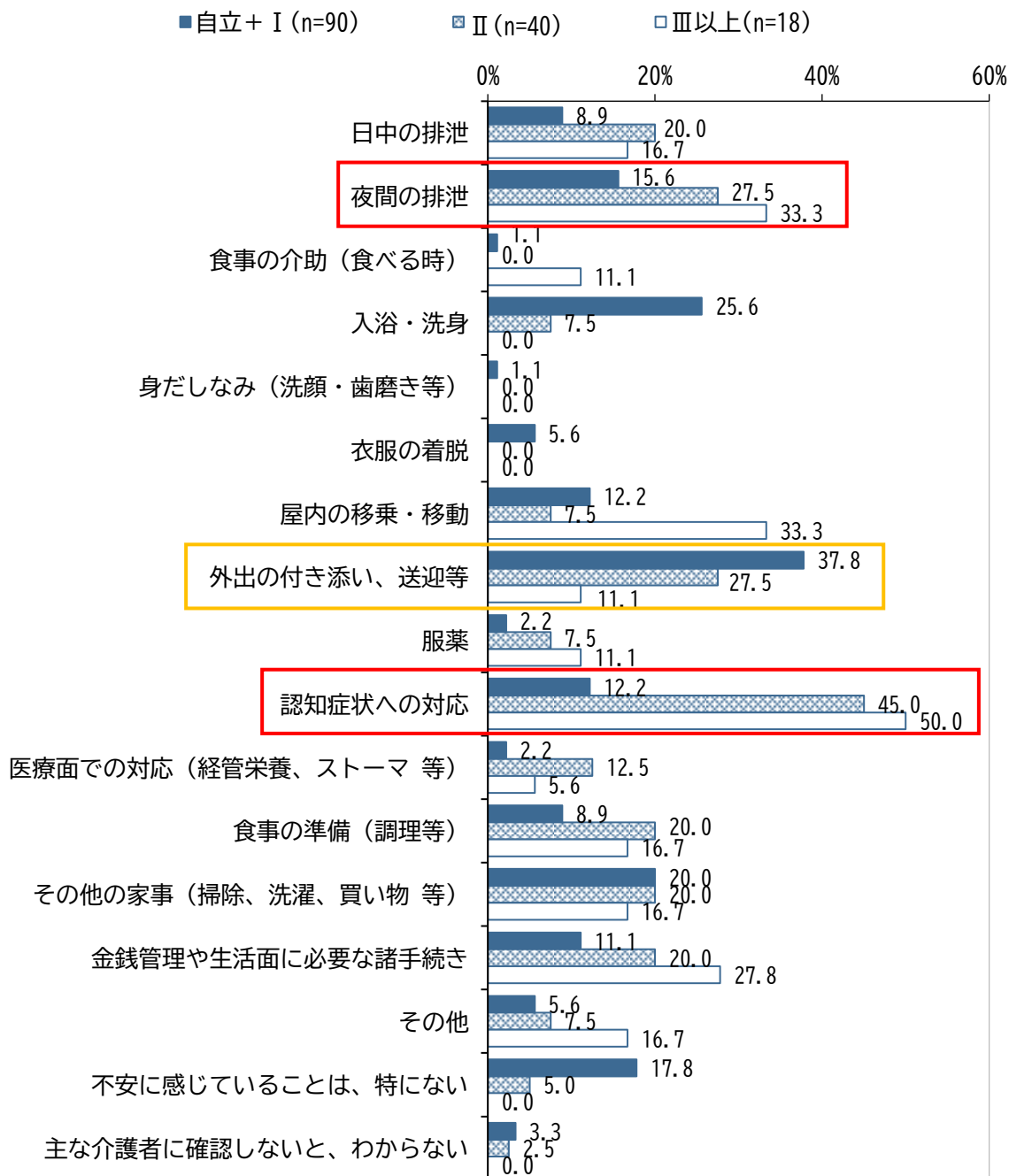
現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護について、要介護3以上では、特に「認知症状への対応」と「夜間の排泄」について、主な介護者の不安が大きい傾向がみられ、認知症自立度別にみた場合についても、概ね同様の傾向がみられました。

また、要支援1・2と要介護1・2の方については、「外出の付き添い、送迎等」について、主な介護者の不安が大きい傾向がみられました。

■介護者が不安を感じる介護 要介護度別【在宅介護実態調査】



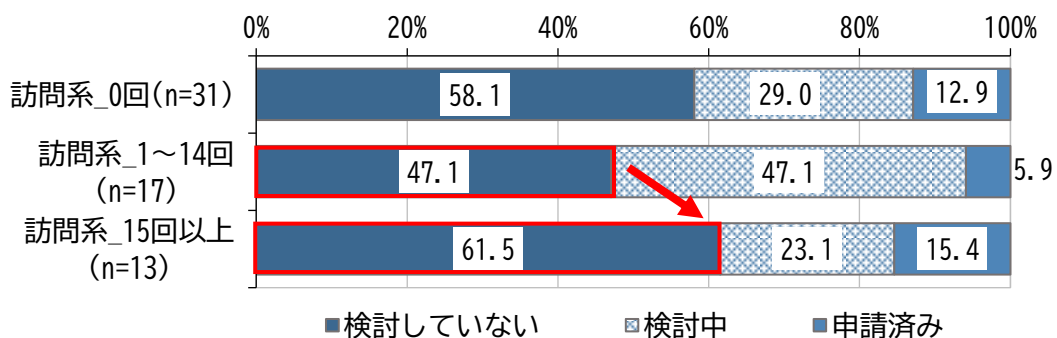
■介護者が不安に感じる介護 認知症自立度別【在宅介護実態調査】



要介護者の在宅生活の継続に向けては、「認知症状への対応」、「夜間の排泄」、「外出支援」の3点について具体的な取り組みを行い、介護者の不安を軽減する必要があります。

訪問系サービスの利用回数別に施設等検討の状況を見ると、訪問系サービスを頻回に利用しているケースで、「施設等を検討していない」との回答が多くなる傾向がみられました。

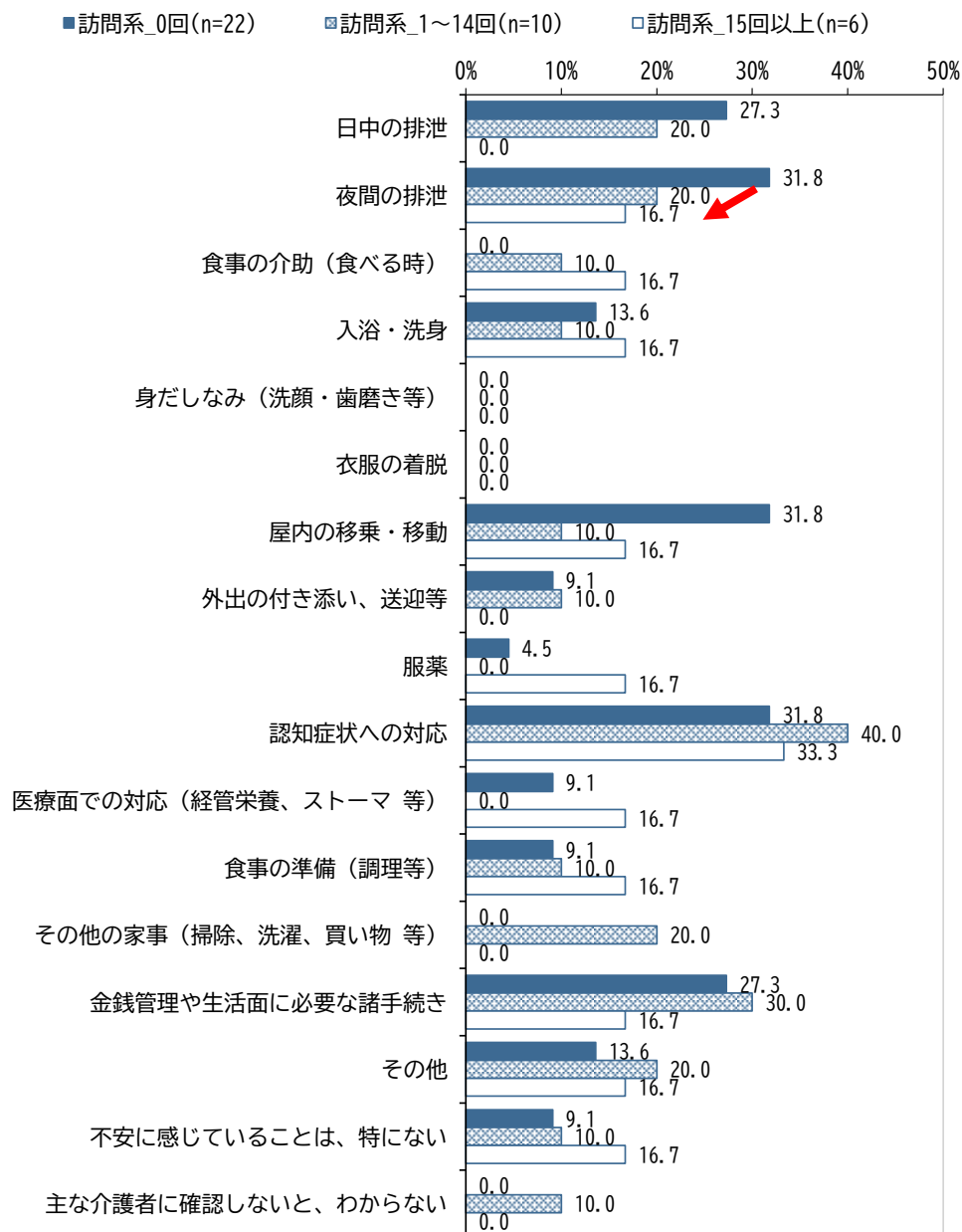
■施設等検討の状況（要介護3以上） 訪問系サービス利用回数別【在宅介護実態調査】



また、訪問系サービスを頻回に利用しているケースでは、「夜間の排泄」について介護者不安が軽減される傾向がみられました。

■介護者が不安を感じる介護（要介護3以上） 訪問系サービス利用回数別

【在宅介護実態調査】



「夜間の排泄」についての介護者不安を軽減するためには、多頻度の訪問系サービスの提供が効果的であることがうかがえました。多頻度の訪問系サービスの提供を実現するため、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の利用推進を図っていくことも効果的であると考えられます。

第3章 日常生活圏域ごとの状況

ここでは、主な調査結果について、日常生活圏域ごとに記載しています。

単位：％

	地域活動			住んでいる地域			地域包括
	活動に参加している人 ※1	参加者として参加したい人 ※2	企画・運営者として参加したい人 ※3	自宅生活 がしやすいと感じている人 ※4	認知症高齢者に理解があると感じている人 ※5	ボランティア活動が活発だと感じている人 ※6	高齢者あんしんセンターに相談経験あり・知っている人 ※7
第1圏域	59.3	45.0	30.3	78.8	42.8 56.9	18.9 21.2	46.6 56.1
八尾中学校区	59.2	46.1	27.8	81.8	42.9 53.5	16.3 21.2	45.8 56.6
桂中学校区	51.0	45.8	34.4	73.8	51.0 50.7	21.6 21.5	45.9 53.8
上之島中学校区	62.5	43.6	30.8	79.0	39.8 63.8	20.3 21.0	47.6 57.1
第2圏域	61.0	44.4	31.0	74.9	41.8 50.8	19.9 21.2	44.0 59.6
久宝寺中学校区	64.0	42.6	31.9	82.2	46.2 63.4	24.7 28.6	42.3 57.1
龍華中学校区	61.6	46.5	29.6	71.7	41.6 43.6	17.8 15.3	47.5 64.5
亀井中学校区	55.4	42.8	32.5	69.1	35.6 43.6	17.2 19.7	39.6 54.9
第3圏域	59.5	45.5	32.2	74.2	40.1 53.4	18.0 17.2	45.5 54.0
大正中学校区	61.3	50.9	38.1	74.2	42.7 48.5	17.5 12.4	46.8 54.6
志紀中学校区	56.6	42.1	30.9	66.7	37.5 47.4	16.1 16.2	42.4 42.4
曙川南中学校区	60.2	44.1	29.4	79.5	40.3 61.0	19.6 21.2	46.5 61.7
第4圏域	58.4	46.4	32.5	74.8	42.7 50.6	20.7 13.7	45.7 56.0
成法中学校区	56.3	46.4	31.6	75.2	43.3 53.3	19.9 14.8	43.6 55.2
曙川中学校区	62.0	50.3	36.3	75.0	41.3 52.0	20.7 14.0	47.5 61.0
高美中学校区	58.2	41.4	29.8	73.5	43.5 42.1	21.9 10.8	47.6 51.8
第5圏域	60.6	49.6	31.5	69.3	49.4 58.6	25.4 18.4	51.1 58.6
高安小中学校区	60.0	44.8	32.4	50.7	52.3 60.8	24.3 21.7	47.1 60.9
南高安中学校区	63.2	52.5	32.8	71.6	45.8 59.3	21.7 12.4	52.2 53.1
東中学校区	58.5	50.0	29.6	80.8	51.0 56.3	30.0 21.3	52.7 61.7

※1 「① ボランティアのグループ」から「⑧ 収入のある仕事（シルバー人材センターなど）」について、「週4回以上」～「年に数回」のいずれかを回答した方（高齢者実態調査）

※2 「是非参加したい」と「参加してもよい」、「既に参加している」の合計（高齢者実態調査）

※3 「是非参加したい」と「参加してもよい」、「既に参加している」の合計（高齢者実態調査）

※4 「しやすいと感じる」と「どちらかといえば、しやすいと感じる」の合計（要介護認定者実態調査）

※5 「理解がある」と「ある程度理解がある」の合計（上段：高齢者実態調査、下段：要介護認定者実態調査）

※6 「思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計（上段：高齢者実態調査、下段：要介護認定者実態調査）

※7 全体から「知らない」と無回答を除いた割合（上段：高齢者実態調査、下段：要介護認定者実態調査）

単位：％

	リスク判定 該当者※8					自己意識や状態		
	運動器機能の低下	低栄養状態	口腔機能の低下	認知機能の低下	閉じこもり傾向	健康状態がよい人※9	幸福感(平均点)※10	介護予防のため健康の維持増進を意識している人※11
第1圏域	16.8 12.6	1.6 1.3	27.6 25.8	44.5 43.5	16.4 13.7	79.4	7.08	73.5
八尾中学校区	17.9 14.2	1.8 1.8	26.8 25.1	42.1 41.4	13.4 11.2	77.1	7.03	74.2
桂中学校区	19.7 11.6	0.6 0.8	36.9 32.6	45.2 44.2	21.0 17.1	77.1	6.83	76.4
上之島中学校区	14.6 11.4	1.7 1.1	24.8 24.0	46.5 45.2	17.5 14.7	82.3	7.21	71.7
第2圏域	19.8 14.9	1.7 1.9	24.8 22.9	42.6 41.7	17.4 14.7	77.8	7.25	72.8
久宝寺中学校区	19.9 14.4	1.5 1.8	24.1 22.1	39.9 38.9	16.1 13.7	77.7	7.18	75.9
龍華中学校区	21.1 15.9	2.3 2.4	23.9 21.8	44.1 41.4	19.8 16.2	79.1	7.31	70.9
亀井中学校区	17.1 13.8	0.9 1.0	27.9 26.2	43.7 46.2	14.9 13.3	75.7	7.23	72.1
第3圏域	18.2 13.3	1.4 0.9	26.1 24.5	41.4 39.6	17.8 15.3	78.7	7.17	74.0
大正中学校区	15.5 11.6	1.3 1.1	29.0 28.0	46.8 45.5	20.9 18.3	80.4	7.30	68.7
志紀中学校区	20.4 16.0	1.3 0.4	26.0 24.9	42.4 39.8	17.8 16.0	81.2	7.11	76.0
曙川南中学校区	18.5 12.8	1.4 1.2	24.4 22.0	37.4 35.7	16.1 13.0	76.1	7.13	75.8
第4圏域	15.2 9.4	1.3 1.2	21.1 18.7	40.9 39.1	14.6 11.5	80.6	7.20	72.3
成法中学校区	17.5 10.9	0.7 0.8	22.0 19.5	41.0 39.4	15.1 11.1	81.5	7.09	72.7
曙川中学校区	11.5 6.1	1.4 1.0	21.5 18.6	40.2 37.9	15.1 11.9	79.0	7.14	75.1
高美中学校区	15.1 10.5	2.4 2.3	18.8 17.4	41.8 39.9	13.0 11.6	80.8	7.49	68.1
第5圏域	15.3 9.2	1.0 0.9	24.0 20.2	42.2 38.1	19.1 14.8	83.2	7.28	74.7
高安小中学校区	17.1 11.1	0.5 0.0	23.3 21.1	43.8 42.2	22.9 17.8	84.8	7.38	71.9
南高安中学校区	14.0 7.0	1.3 1.2	22.4 20.2	37.8 33.5	17.1 13.6	82.3	7.36	78.9
東中学校区	15.3 10.0	1.0 1.3	26.2 19.6	45.6 40.0	18.4 13.8	83.0	7.14	72.5

※8 上段：回答者全体、下段：一般高齢者のみ（高齢者実態調査）

※9 「とてもよい」と「まあよい」の合計（高齢者実態調査）

※10 無回答を除いて集計（高齢者実態調査）

※11 「強く意識している」と「意識している」の合計（高齢者実態調査）